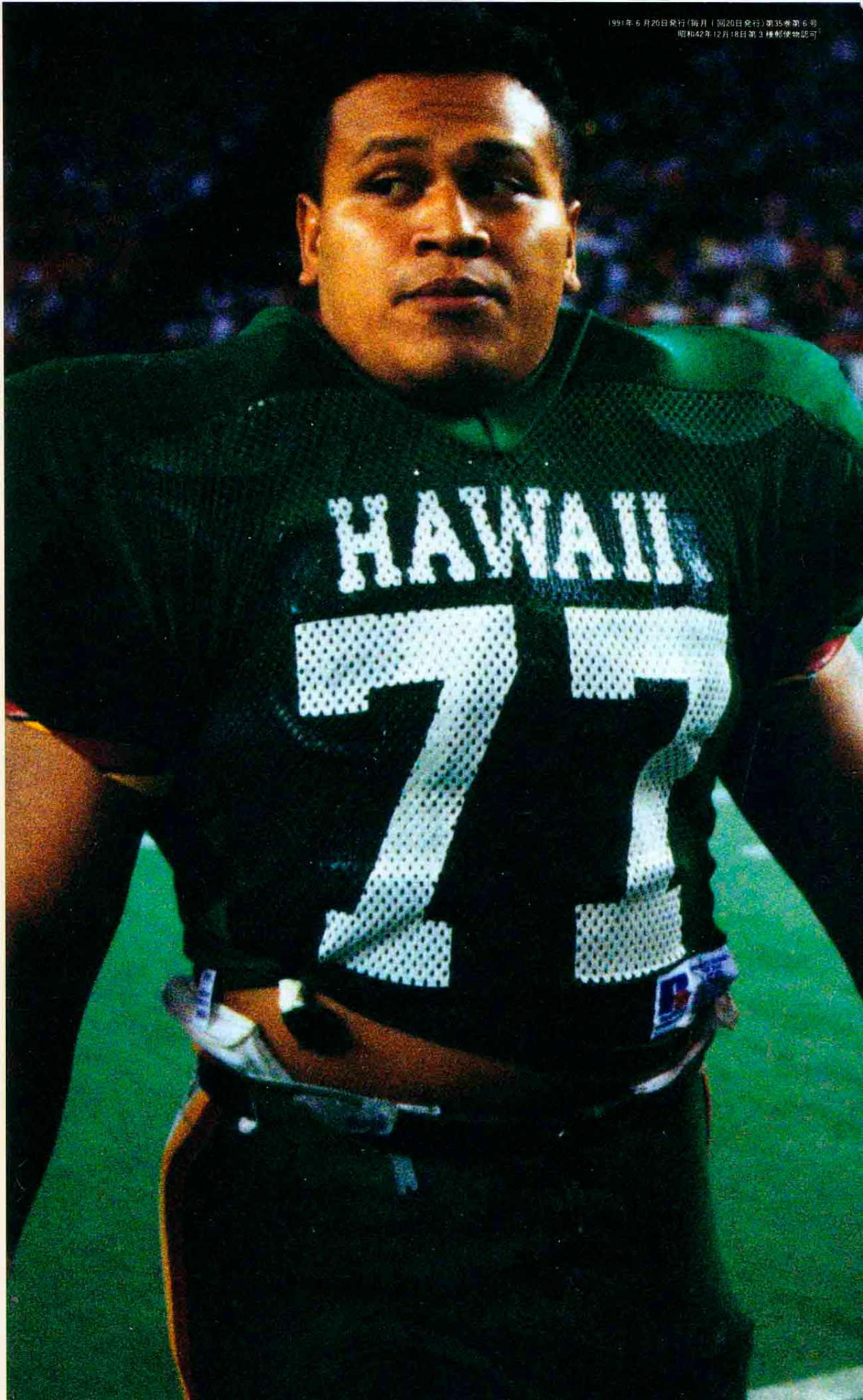
1991年6月20日発行(毎月1回20日発行)第35巻第6号
昭和42年12月18日第3種郵便物認可

聖徒の道

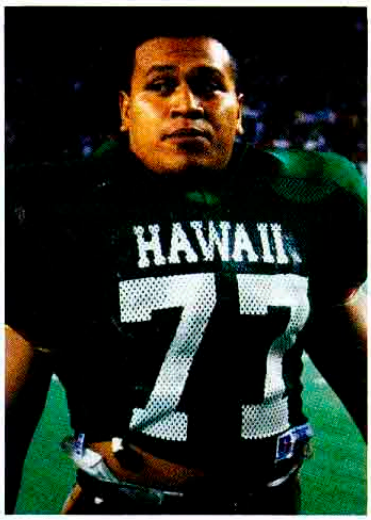
6
1991



末日聖徒
イエス・キリスト
教　会

聖徒の道

1991年6月号



表紙――サモアのフットボール選手タビタ・サガポルは，試合で敵を組み伏しても，出会う人の心をみな高めてくれます。本文「霊の巨人」p. 12参照

子供のページ表紙――「勇敢な青年たちに救われたマーチン手車隊」クラーク・ケリー・プライス画。手車隊の子供たちはいっしょうけんめいに働き，たくさんのつらい目にもあいました。でも，楽しいこともありました。子供のページ「シオンをめざして」p. 14参照

一　般

大管長会メッセージ――イエスの探求
第二副管長トーマス・S・モンソン …… 2

ローザ・クララ――オーストラリアの開拓者
マージョリー・B・ニュートン …… 8

人生における選択　**ボイド・K・パッカー長老** ……25

あの名前をどこで見たのでしょう？　スーザン・ワイマン ……28

氷の中のバプテスマ　ウェード・ブラッケンベリー ……30

回復された誓約 ……34

信仰あつい改宗者――バルセロナの聖徒たち
キャロル・バーマン・リベロー ……44

青少年

霊の巨人　テリー・オーランド ……12

最後のキャンプ　ジャック・ウェイランド作 ……18

モルモンメッセージ ……33

定期特別記事

読者からの便り …… 1

家庭訪問メッセージ――女性一人一人に祝福を与える ……24

こども

モルモン経物語――ゼニフ …… 2

ミツバチのす　ローウェル・L・ハンブリン …… 4

分かち合いの時間――毎日聖典を読みましょう
ローレル・ロールフィング …… 8

ぼく教会に行きたくない　ヘレン・ヒューズ・ビック ……10

子ひつじたちの夏　ジェイン・B・マラン ……12

たんけん――シオンをめざして　バイオレット・キンボール ……14

おもちゃばこ――ヤーンアート　ジュリー・ウォーデル
旧約聖書の中の予言者たち　ジャネット・ピーターソン ……16

聖徒の道

1991年6月号

本誌は，末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊――イタリア語，英語，オランダ語，サモア語，スウェーデン語，スペイン語，中国語，韓国語，デンマーク語，ドイツ語，トンガ語，日本語，フィンランド語，フランス語，ポルトガル語，ノルウェー語。隔月刊――インドネシア語，タイ語，タヒチ語。季刊――アイスランド語。

大管長会：エズラ・タフト・ベンソン，ゴードン・B・ヒンクレー，トーマス・S・モンソン
十二使徒定員会：ハワード・W・ハンター，ボイド・K・パッカー，マービン・J・アシュトン，L・トム・ペリー，デビッド・B・ヘイト，ジェームズ・E・ファウスト，ニール・A・マックスウェル，ラッセル・M・ネルソン，ダリン・H・オークス，M・ラッセル・バラード，ジョセフ・B・ワースリン，リチャード・G・スコット
顧問：レックス・D・ピネガー，ジーン・R・クック，ジョン・H・グローバーグ，ロバート・E・ウエルズ
編集長：レックス・D・ピネガー
教科課程管理部実務部長：ロナルド・L・ナイトン
教会機関誌ディレクター：トーマス・L・ピーターソン
国際機関誌
編集主幹：ブライアン・K・ケリー
編集主幹補佐：マービン・K・ガードナー
編集副主幹：デビッド・ミッチェル
編集補佐／こどものページ：ディエーン・ウォーカー
工程管理：ダイアナ・バンスタブレン
チーフアートディレクター：M・マサト・カワサキ
アートディレクター：スコット・D・バン・カンペン
デザイナー：シェリー・クック
制作：レジナルド・J・クリステンセン，スティーブ・デイトン，ジェーン・アン・ケンプ，デニーズ・カービー
配送部長：ジョイス・ハンセン
聖徒の道 1991年6月号第35巻第5号
発行所　末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106 東京都港区南麻布5-10-30
電話　03-3440-2351
印刷所　株式会社　精興社/クロスロード
定価　年間予約/海外予約2,200円(送料共)
半年予約 1,100円(送料共)
普通号 150円，大会号 350円
International Magazine
ITEM 91983 300
Printed in Tokyo, Japan.

Copyright © 1991 by the Corporation of the President of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved.

●定期講読は，「聖徒の道予約申し込み用紙」でお申し込みになるか，または現金書留か郵便振替(口座名／末日聖徒イエス・キリスト教会　振替口座番号／東京0-41512)にて管理本部経理課へご送金いただければ，直接郵送いたします。●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課☎03-3440-2351(代表)●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131／末日聖徒イエス・キリスト教会　資材管理部配送センター☎044-811-0417

The *Seito No Michi*(ISSN 0385-7670)is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150. Second-class postage paid at Salt Lake City, UT 84150. Subscription price $14.00 a year. $1.50 per single copy. Thirty days' notice required for change of address. When ordering a change, include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both the old address and the new are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Church Magazines, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A. Subscription information telephone number 801-240-2947.

POSTMASTER: Send address changes to *Seito No Michi* at 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A.

人生の変化

「リアホナ」(スペイン語版)を予約購読してから2年になりますが，毎月とても楽しみに読んでいます。どの記事もちょうどその時の自分に必要なことを示してくれているようで，天父に近づく助けとなっています。

バプテスマを受けてから，私と家族の人生は変わりました。そして，主が与えてくださったこの人生が，私たちの持ち得る最も貴いものであるということがわかりました。私たちはこの試しの生涯で，主から与えられたすべての戒めを守ることによって，主への心からの愛を証明しなければなりません。心と思いを尽くして，与えられた義務を精一杯果たすなら，私たちは必ず救われるのです。

また，みたまは正しいことをするように常に私を助け，影響を与えてくれます。

今，私はこの教会の会員として，真理を知ることはとてもすばらしく，まただれにもそれは変えられないと証することができます。福音を実践してきて，多くの良い友達ができました。また，いつも人々が私を尊重してくれるのを感じています。

主が私たちに注いでくださる祝福は数多くありますが，私たちが主の戒めを守る限り，さらに祝福が増し加えられることでしょう。

ペルー，ワッチョー
ジェニー・アマヤ・A

伝道の道具として使っています

私は学校の教師をしています。何年か前，学校の教師仲間やこの地域にあるほかのキリスト教会の牧師たちのために，「リアホナ」(スペイン語版)を申し込むことにしました。たくさんの人がこのプレゼントを喜んでくれましたが，特にどの教会にも属していない同僚たちの多くが毎月「リアホナ」が届くのを心待ちにしてくれるようになりました。

また私は，だれかの誕生会や卒業のお祝いに招かれるときはいつでも，「リアホナ」とモルモン経をプレゼントとして贈るようにしています。

このように福音のメッセージを伝えたことによって，今この地の教会に何人かの新しい会員が集うようになり，また私も新しい友人を得ることができました。

「リアホナ」はスペイン語で著された最もすばらしい出版物のひとつではないでしょうか。それは，「リアホナ」が単に良い読み物というだけでなく，確かな導きと指針を与えてくれる書物だからです。

私は特に大管長会のメッセージと総大会報告が大好きです。また幹部の方々や，総大会に訪れた会員たちの写真を見るのがとても楽しみです。私は心から幹部の兄弟たちを愛しています。そして彼らが召しを果たすうえで主の祝福があるようにといつも祈っています。

モルモン経物語がカラー版になったことをうれしく思っています。またこの連載がずっと続いてモルモン経のすべての物語が紹介されるよう願っています。

「リアホナ」がいつまでも発行され続けることを願っています。もし「リアホナ」がなかったとしたら，何百，何千もの聖徒が暗やみをさまようことになるでしょう。これからも続けて良い書物を私たちのもとに届けてください。

グアテマラ，サンマルコス，
オブランカワード部監督
ガマリエル・アルシデス・バスケス・ペレス

イエスの探求

大管長会第二副管長
トーマス・S・モンソン

イエスを見いだすための公式はいつでも同じです。これからも変わることはないでしょう。へりくだった清い心で捧げる，真心からの熱心な祈りがそれです。

主の生涯を記録した新約聖書の中で，ヨハネは，ある人々が礼拝のために旅をして来たと記しています。

「祭で礼拝するために上ってきた人々……がいた。彼らは……ピリポのところにきて，『君よ，イエスにお目にかかりたいのですが』と言って頼んだ。」（ヨハネ12：20―21，下線付加）

小さな子供たちもそれと同じ願いを，別の言葉でこう言っています。「エスさまのはなしきかせて，エスさまにききたいことがある。」（『エスさまのはなし』「子供の歌」B―46）多くの子供たちがよくこのように歌います。彼らは「主を尋ね求め」（使徒15：17）ています。これまでもずっとそうでした。これほど大勢の人が行なっている探求，これほど豊かに報われる務め，これほど気高い努力，これほど神聖な目的は，ほかにはありません。

イエスの探求は，何も現代に限ったことではありません。モロナイは，異邦人たちに告げた愛情と霊感に満ちた別れの言葉の中で，次のようにこの探求を強調しています。

PHOTOGRAPH BY JOHN LUKE

「私モロナイは，……別れを告げる。……私は慎んであなたたちにすすめたい。……あなたたちは予言者たちと使徒たちが書き記したイエスを求めよ。」（イテル12：38，41）

幾世代にもわたり，新旧両世界の霊感を受けた人々は，全能の神が義人を通して啓示された数々の予言の成就を，熱心に尋ね求めました。こうして待ちに待ったあの夜が訪れ，主のみ使いが「野宿しながら羊の群れの番をしていた」（ルカ２：８）羊飼いたちのもとにやって来て，こう告げたのでした。「きょうダビデの町に，あなたがたのために救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである。」（ルカ２：11）

「布にくるまって飼葉おけの中に寝かしてある」（ルカ２：12）幼な子を捜し出すように，直接み告げを受けた羊飼いたちは，自分たちの所有物がどうなるかということで頭を悩ませたでしょうか。イエスを捜し出すことを先に延ばしたでしょうか。聖なる記録は，羊飼いたちが互いに次のように語り合ったことを，はっきりと伝えています。「さあ，ベツレヘムへ今すぐ行って……こようではないか。……そして急いで行っ〔た。〕」（欽定訳ルカ２：15―16）

博士たちも東方からエルサレムにやって来て，こう言いました。「『ユダヤ人の王としてお生れになったかたは，どこにおられますか。わたしたちは東の方でその星を見たので，そのかたを拝みにきました。』……彼らはその星を見て，非常な喜びにあふれた。そして，……母マリヤのそばにいる幼な子に会い，ひれ伏して拝み，また，宝の箱をあけて，黄金・乳香・没薬などの贈り物をささげた。」（マタイ２：２，10―11）

ベツレヘムでの幼な子の誕生とともに，きわめて重要な賜――どのような武力も及ばぬ力，カイザルの貨幣とは異なる不変の富が，授けられたのです。この幼な子は長じて王の王，主の主，約束のメシヤとなるはずのお方でした。すなわち，イエス・キリスト，神の御子だったのです。

このお方はうまやでお生まれになって飼い葉おけの中に寝かされていましたが，死すべき人間としてこの地上で生活し，神の王国を確立するために，天から下って来られたのでした。この地上で教えと導きを施しておられた間，主はそれまでよりも次元の高い律法を人に授けられました。その栄えある福音は世の人々の思いを変えました。主は病人を祝福し，足の不自由な人を歩けるように，目の見えない人を見えるように，耳の聞こえない人を聞こえるようにされました。死んだ人を生き返らせることさえされたのです。

救い主の慈悲のメッセージ，知恵に満ちた言葉，人生の教訓に対する人々の反応はどうだったでしょうか。主を認めることのできたわずかばかりの貴重な人々もいました。彼らは主の足元にひれ伏し，み言葉を学び，そのみ跡に従っていきました。

ところが，主を拒んだ人の数は少なくありませんでした。「それではキリストといわれるイエスは，どうしたらよいか」とピラトが尋ねると，民衆はこう答えたのです。「十字架につけよ。」（マタイ27：22）彼らは主を嘲弄し，酸いぶどう酒を突き出し，ののしり，葦の棒で打ちつけ，つばを吐きかけました。そして十字架にかけたのです。

死すべき肉体を持ちたもう独り子が十字架上で苦しみを受けられたときの永遠の御父の心の内，神の苦しみを，私たちはわずかなりとも理解できるでしょうか。息子が自らのゲツセマネの園で次のような苦悩の声をあげるときに，それを聞きつけて深い憐れみの情に心を動かされない父親，母親がいるでしょうか。「父よ，みこころならば，どうぞ，この杯をわたしから取りのけてください。しかし，わたしの思いではなく，みこころが成るようにしてください。」（ルカ22：42）

聖書の中のアブラハムとイサクの美しい物語は，だれもが愛読しています。アブラハムにとって，最愛の息子をモリヤの地に連れて行くという神の命令に従うことは，どれほど耐え難いことだったでしょう。彼はそこで息子を，燔祭として捧げなければならなかったのです。燃やすたきぎを集め，指定された地に向けて旅立ったときの

アブラハムの深い悲しみが想像できるでしょうか。苦痛で全身を震わせ，心の張り裂けそうな思いで，アブラハムはイサクを縛って祭壇のたきぎの上に置き，ナイフに手を伸ばして自分の息子を殺そうとしたのです。そのとき告げられた神のみ声のなんと輝かしく，なんと驚くべきものだったことでしょう。「わらべを手にかけてはならない。また何も彼にしてはならない。あなたの子，あなたのひとり子をさえ，わたしのために惜しまないので，あなたが神を恐れる者であることをわたしは今知った。」(創世22：12)

神が肉における独り子イエスの受けた苦しみを知り，その苦悩を見ておられたとき，イエスの命を救う天からの声は何もありませんでした。犠牲の代わりとなる雄羊が，茂みの中に用意されたわけでもありません。なぜなら「神はそのひとり子を賜わったほどに，この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで，永遠の命を得るため」であったからです。(ヨハネ3：16)

いつの時代もイエスの呼びかけは変わることがありません。ガリラヤ湖の美しい岸辺で主はペテロにこう言われました。「わたしについてきなさい。」(マタイ4：19)かつて，ピリポにも同じ言葉がかけられました。「わたしに従ってきなさい。」(ヨハネ1：43)取税人マタイにも「わたしに従ってきなさい」(マタイ9：9)という指示が与えられています。皆さんや私にも，耳を傾けさえすれば，「わたしに従ってきなさい」という主の同じ招きが与えられるでしょう。

しかし，まず主を見いださなければ，どうして主に従えるでしょう。そして，主を捜し求めなければ，どのようにして主を見いだせるでしょうか。では，どこから，またどのようにして，このイエスの探求を始めればいいのでしょう。

イエスを見いだすための公式はいつでも同じです。これからも変わることはないでしょう。へりくだった清い心で捧げる，真心からの熱心な祈りがそれです。予言者エレミヤは次のように勧告しました。「あなたがたはわたしを尋ね求めて，わたしに会う。もしあなたがたが一心にわたしを尋ね求めるならば……。」(エレミヤ29：13)

自らのイエスの探求を成功させたいと思うなら，まず第一に，イエスのための時間を自分の生活の中に設け，イエスを求める余裕を心の中に持たなければなりません。忙しい現代にあって，ゴルフやショッピング，仕事や遊びのためには時間を割いても，キリストのためには時間を取れない人が大勢います。

そこかしこに建つ立派な家屋には，食堂があり，寝室があり，家族のくつろぐ居間が用意されているのに，イエスのために割ける部屋，余裕はどこにもありません。

主の次の言葉を思い出して，私たちは良心が痛まないでしょうか。「きつねには穴があり，空の鳥には巣がある。しかし，人の子にはまくらする所がない。」(マタイ8：20)それとも，次のような情景を思い浮かべて，恥じ入りはしないでしょうか。「初子を産み，布にくるんで，飼葉おけの中に寝かせた。客間には彼らのいる余地がなかったからである。」(ルカ2：7)余地がない，余地がない，余地がない！　いつでもそうです。

祈りの原則によって助けと導きを得，イエスの探求に取り組むとき，自分の捜す相手がどのようなお方であるかをはっきり理解しておくことが肝要です。昔の羊飼いたちが捜し求めたイエスは幼な子でした。しかし私たちが捜し求めるイエスはキリストであり，人類の長兄，御父との間の仲保者，贖い主，「救の源」(ヘブル5：9)，「太初に……御父と共に在」ったお方(教義と聖約93：21)，この世の罪を一身に背負い，人が永久に生きられるように進んで命を投げ出されたお方なのです。それが私たちの捜し求めるイエスの姿なのです。

では，イエスに出会ったとき，昔の博士たちのように，私たちの豊かな宝の中から贈り物を捧げる備えはできているでしょうか。博士たちは黄金や乳香，没薬を贈りましたが，現在の私たちに捧げるよう求められているものは，それらとは異なっています。心の宝庫から自分自身を捧げるようにイエスは求めておられるのです。「見よ，

喜ばすべき心，語るべき親切な言葉，渡すべき贈り物，なすべき行ないがあり，救うべき人が数限りなく存在します。

主は真心と喜びて事に従う精神とを求む。」(教義と聖約64：34)

この驚くべき時満ちたる神権時代に自らを捧げる機会は実に際限なく存在しますが，同時にそれらは失われやすいものです。喜ばすべき心，語るべき親切な言葉，渡すべき贈り物，なすべき行ないがあり，救うべき人が数限りなく存在します。次の聖句を忘れないでください。「お前たちが同胞のために務めるのは，ただお前たちの神のために務めるのである……。」(モーサヤ２：17)

幸いなことに，人に奉仕する特権はだれにでも与えられます。目を上げさえすれば，そうした機会に導いてくれる，輝く特別な星が私たちにも与えられるでしょう。

星を見上げそれに従った人に，ユタ州ソルトレークシティーに住むボイド・ハッチ兄弟がいます。ハッチ兄弟は足の自由を奪われ，生涯，車いすでの生活を余儀なくされました。自分の不幸ばかりを考え，自己憐憫に陥って，人生に取り組むどころかぼんやりと日々を過ごすだけになったとしても不思議はなかったはずです。ところが，ハッチ兄弟は自分のことだけを考えるのではなく，目を外に向けて人々の生活を，目を上に向けて神のおられる天のことを考えました。霊感という星の導きを受けて，機会は１度どころか文字どおり数え切れないほど訪れました。ハッチ兄弟は障害児のスカウト隊を組織して，キャンピング，水泳，バスケットボールを教え，信仰を教えたのです。少年たちの中には落胆し，自己憐憫に陥り，希望を失った者たちもいました。ハッチ兄弟はそのような少年たちに，いわば希望の灯を差し出したのです。少年たちは目前で，困難と戦いながらも勝利を収めたハッチ兄弟の模範を見ていました。様々な宗派から集まったその少年たちは，障害のない私たちには到底十分には理解できないような勇気を持って，越え難いハンディキャップにも打ち勝ち，新たな自分を見いだしました。そうしたすべての機会を通して，ボイド・ハッチ兄弟は喜びを感じただけではなく，自分を忘れ，進んで自らを捧げることによって，イエスを見いだしたのです。

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員はひとり残らず，バプテスマの水を通して，「いついかなる時でも，どのような所に居ても，どんなことについても」(モーサヤ18：９)神の証人になるという誓約を結び，「互いに苦難を軽くするために喜んで助け合う」(モーサヤ18：８)という意思を進んで表明しています。

「見よ，われはイエス・キリストなり。予言者らがこの世に来ると証をしたるその者なり。」(IIIニーファイ11：10)生活の中でその誓約を実行に移すなら，私たちはこのように宣言されたお方を親しく知るようになるでしょう。これが私たちの捜し求めるイエスです。これが私たちの愛する兄，私たちが仕える主，キリストなのです。私はこのお方が生きておられることを証します。こう語る私自身，イエスを見いだした者のひとりなのです。□

ホームティーチャーへの提案

1．「わたしに従ってきなさい。」――これはいつの時代にも変わることのないイエスのメッセージであると，モンソン副管長は語っている。

2．しかし，イエスを見いださずに，どうしてイエスに従うことができるであろう。そして何よりも最初にイエスを捜し求めなければ，どうしてイエスを見いだせるであろうか。

3．イエスを見いだすための公式はいつでも同じである。主は，清い心で，熱心に真心からへりくだって祈るときに，見いだすことができる。

4．イエスを捜し始めるには，生活の中にイエスのための時間を，心の中にイエスのことを考える余裕を，持たなければならない。

5．こうしてイエスを見いだすと，人々への真の奉仕に自らを捧げるようにという主のメッセージが与えられる。すなわち人々の心を喜ばせ，親切な言葉を語り，良い行ないをし，救いを必要としている人々に救いをもたらすという奉仕の業に自らを捧げるのである。

ローザ・クララ

――オーストラリアの開拓者

マージョリー・B・ニュートン

1849年3月，11歳のローザ・クララ・フリードランダーは，オーストラリアのシドニータウンに船で到着しました。生まれ故郷のチャンネル諸島から，実に地球を半周する旅でした。そのときの彼女は，7年足らずのうちに今度は太平洋を横断し，もうひとつの新しい故郷となるユタの地へ旅立つことになろうとは思いもかけませんでした。その7年間に彼女は回復された福音を見いだし，新しく開設されたシドニー支部を支え，大人と同等に責任を果たしていくことになるのでした。

ローザ・クララは1837年，英仏間を流れるイギリス海峡に位置するガーンジー島に生まれました。父の死後，最初は英国内に住んでいましたが，オーストラリアのニューサウスウェールズ州へと移住しました。母親のエライザ・フリードランダーと弟のジェームズと共に到着した1849年当時，シドニーは繁栄する大都市でした。その後2年してローザ・クララの母はジョージ・W・ワトソンと再婚しました。

ローザの母が再婚してわずか6週間後，ジョン・マードック長老とチャールズ・W・ワンデル長老のふたりが，オーストラリア伝道部を創設するために到着しました。クリスマスまでに彼らは12人にバプテスマを施し，1852年の最初の日曜日にワンデル長老はシドニー支部を開設しました。

エライザ・ワトソンと夫，そして彼女のふたりの子供が福音を受け入れ，バプテスマを受けたのは，支部が開設された数週間後のことでした。ジョージ・ワトソンは祭司の職に聖任され，家族全員がこの新しい支部に活発に集いました。教会員でない人々が福音を学ぶためにしばしば自宅を解放していましたが，パートタイム宣教師としてメルボルンで働く人が必要になったとき，ジョージ・ワトソンはこれに志願しました。

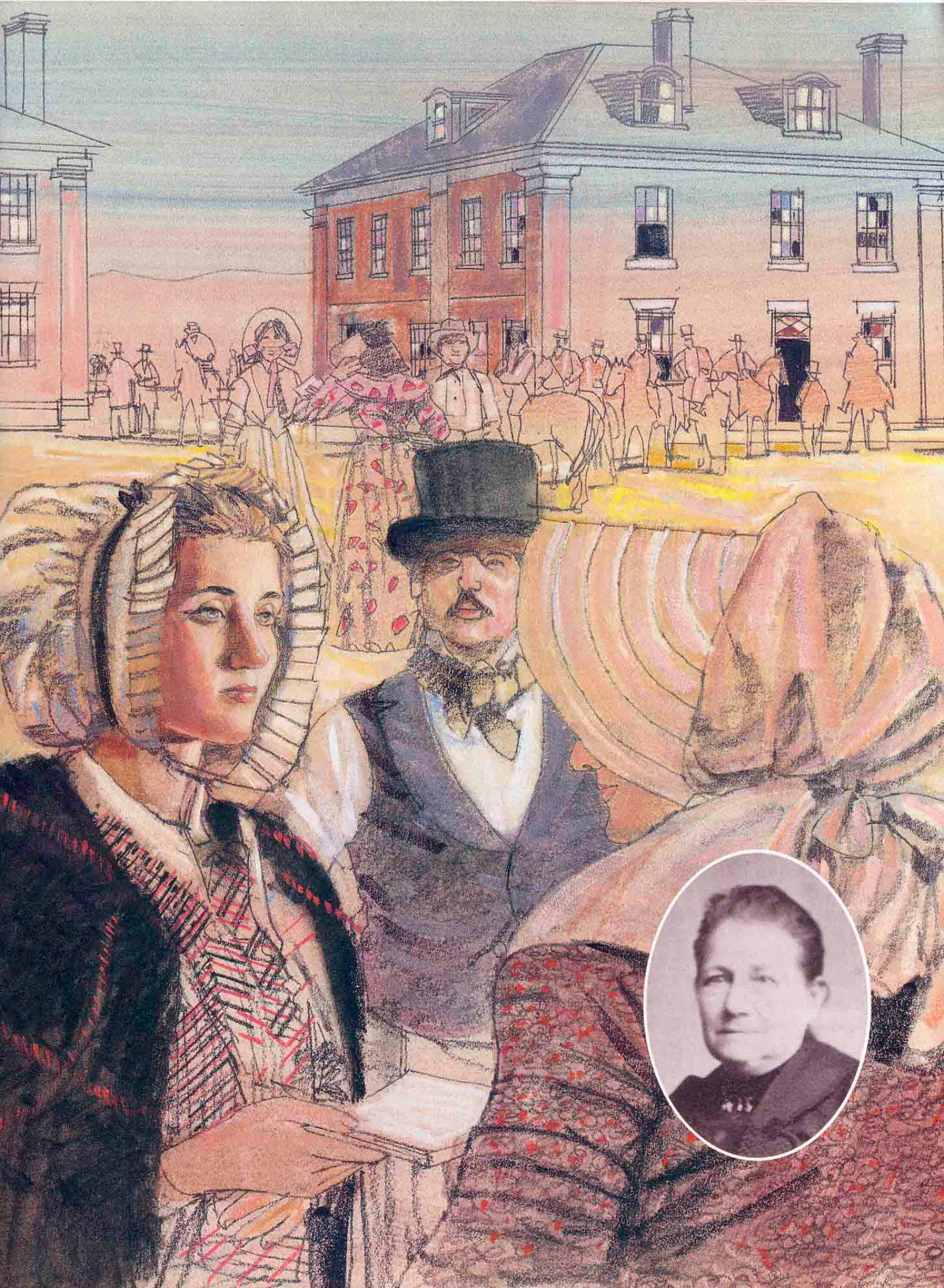
ローザ・クララはそれを聞いて悲嘆に暮れました。当時15歳の彼女は小さなシドニー支部で働くことに喜びを感じ，メアリー・クラインズという教会の若い姉妹と親友になっていたからです。また，ローザ・クララは母親を大変愛していましたが，義父とはあまりうまくいっているとは言えませんでした。そこで彼女は，両親の了解を得て，家族がメルボルンにたった後もシドニーにとどまり，代々の伝道部長の保護のもとで暮らすことになりました。

ローザ・クララは結婚してエバンズ姓になった親友のメアリーと夫ロバートと共に，パラマタ川沿いのキッシングポイントに住むことになりました。日曜日ごとに12マイル(約20キロ)の道のりを歩いて，キング通りの裁判所の向かいにあったオールド・アッセンブリー・ルームズという場所で開かれていた集会に出席していました。その集会所は学校の建物の2階にあり，以前は長老派教会の臨時の集会所として使われていた所で，そのときは末日聖徒の長老たちがシドニー支部の集会所として借りていたのです。

ローザ・クララは木曜の夜には歌の練習に通い，日曜日には聖歌隊で歌いました。彼女は教会のチラシを配るのを手伝うなど，シドニーでの伝道の業を進めるために力の限り働きました。

1853年5月21日，16歳になったローザ・クララ・フリードランダーは，改宗したばかりのチャールズ・ジョセフ・ゴードン・ロギーとスコットランド教会で結婚しました。司式はジェームズ・フラートン牧師でした。当時オーストラリアでは末日聖徒の長老たち

ローザ・クララは教会のチラシを配るなど，オーストラリアのシドニーにおける伝道の業を進めるために力の限り働きました。



が結婚の儀式をつかさどることは法的に認められていなかったからです。しかし，新任の伝道部長オーガスタス・ファーナムと，ローザ・クララの教会の友人メアリー・アン・ギンゲルが式に参列し，証人として書類に署名してくれました。ファーナム伝道部長は日記に次のように記しています。「フラートン牧師の司式によるロギー兄弟とフリードランダー姉妹の結婚式に出席した。ギンゲル兄弟の家に戻り，結婚の儀式を改めて執り行なった。その夜は非常に楽しく，平安と一致のうちに過ごした。」

ローザ・クララとチャールズ・ロギーは新居を構え，支部で共に働きました。そのころ，新任の宣教師のひとりジョン・ハイド長老は口腔(こうこう)がんのため病床にありました。病状が悪化するにつれ，公立の施設で看護を受けざるを得ない状態になりました。ローザ・クララは，ひとり寂しく病の床で激痛に苦しむこの宣教師を思いやり，とうとう彼を施設から自宅に引き取ることにしました。そしてこの雄々しい16歳の少女は，彼が亡くなるまで世話をしました。

1854年の６月27日，ローザ・クララは初めての子供に恵まれ，ファーナム伝道部長にあやかってその娘をアニー・オーガスタと名付けました。アニー・オーガスタが生後14カ月のとき，家族はシドニーを離れほかの聖徒たちと共にジュリア・アン号でカリフォルニアに向かいました。しかし，その４週間後に悲劇が起こったのです。

1855年10月３日の夜のこと，聖徒たちは甲板で賛美歌を歌い，ローザ・ク

ララは船室で赤ん坊を寝かしつけようとしていました。そのとき突然，船がさんご礁に衝突したのです。しばらくの間，船上は混乱を極めました。そのうち船員のひとりが岩礁まで泳いで渡り，うまくロープを結び付けることができました。船長はそれに綱をかけ，女性と子供をひとりずつ岩礁に渡すことに決めたのですが，真っ暗やみの中，何が起こるか予測もできません。女性たちは皆怖がって前に出ようとはしませんでした。そしてとうとうまだ18歳にも満たないローザ・クララが最初に渡ることを申し出たのでした。彼女は急いで赤ん坊を，毛糸でできた茶色のショールでチャールズの背中にしっかりとくくりつけ，岩礁に向かう支度をしました。ちょうどそのとき，恐ろしいことにローザ・クララの目の前で夫と赤ん坊が大きな波に押し流されてしまったのです。しかし，幸いにも船員のひとりが助け上げてくれ，ふたりとも無事でした。

ローザ・クララは勇気を奮い起こし，難破した船の上に家族を残して，船長に助けられながらロープを手で伝い，岩礁まで何とかたどり着くことができました。打ち砕ける波を浴びながら，

ローザ・クララは船長の助けを借り，難破した船から手でロープを伝いながら無事さんご礁までたどり着きました。

ローザ・クララのティーポットとコップ代わりに使ったココナッツの殻は今も家宝として大切にされています。

ローザ・クララは胸まで海水につかって，皮膚を裂くような鋭いさんご礁の上に素足で立っていました。船長がほかの女性を助けに戻る間，彼女は真っ暗な海でただひとり待っていたのです。やがて，チャールズとアンも含めてほとんどの人が無事岩礁に移動できたのですが，残念なことに，小さな女の子ふたりが甲板から波にのまれて行方不明になり，さらに船室の中で女性ふたりと赤ん坊がひとり，おぼれて犠牲になったのでした。

朝が来ると，座礁した船の板とくぎを使って船員たちがいかだを作り，生き残った船客を全員近くの小島に移動させることができました。しかし，それから８週間もその島にとどまることになりました。

その間皆は，船から持ち出した固いビスケット１たると紅茶１箱，それに島のココナッツや魚，亀の肉や卵で飢えをしのいだのでした。ココナッツの殻は半分に割り，コップ代わりに使いました。チャールズ・ロギーは船から持ち出した大きな絹のスカートで病に倒れたローザ・クララのためにテントを作りました。そのそばでは小さなアンが砂にまみれて楽しそうに遊んでいました。やがて船の救命ボートを修繕して数人の船員が救助を求めに海にこぎ出しました。彼らはソシエテ諸島（タヒチ）までの300キロ以上をこぎ切ったのでした。

ロギー家族とほかの人々は遭難から２カ月後に島から救助され，その後ついにサンフランシスコの土を踏むことができました。彼らを迎えたジョージ・Q・キャノン長老は，最初に岩礁に渡ったローザ・クララの勇気をたたえ，小さなしんちゅうのティーポットを記念品として贈りました。そのティーポットは，ココナッツの殻のコップとジュリア・アン号に使用されていたくぎと共に，今もなおロギー家の貴重な宝として代々受け継がれています。

チャールズとローザ・クララはやがてユタ州のアメリカンフォークに定住し，ローザはその地で12人の子供を育てあげました。彼女は終生主に奉仕しましたが，特に少女期のシドニー支部での彼女の働きは，今もなお語り継がれています。1852年にチャールズ・ワンデルはフランクリン・D・リチャーズに次のように書き送っています。「（オーストラリアの）この地には何千人もの英国人居住者を擁する大きくそして繁栄している集落がいくつもあります。そしてこのシドニーの小さな支部こそ，そのすべての集落に広がりゆく神の王国の中核をなしているのです。」

今日のオーストラリア国内の18のステーキ部と５つの伝道部に所属する７万人を超える聖徒たちこそは，チャールズ・W・ワンデルのような宣教師やローザ・クララ・フリードランダー・ロギーのような忠実な会員の開拓者精神がもたらした朽ちることのない記念碑なのです。□

＊マージョリー・ニュートン姉妹：オーストラリア，シドニー・モートデールステーキ部バンクスタウンワード部所属。オーストラリアにおける教会概史の著者。

77

霊の巨人

テリー・オーランド

うだるような暑さに加え，街は土砂降りの雨です。そんな天候にもかかわらず宣教師たちが道を下っていきました。汗と雨が混じり合って，顔や背中を伝っていきます。行く道の両側には，香港（ホンコン）の人々の質素な家が立ち並んでいました。

その中の１軒の，ベニヤ板でできたドアをノックするタビタ・サガポル長老は，巨人のように見えるのでした。身長180センチ，体重は120キロ以上もある，大学フットボールのスターも，今は専任宣教師として働いています。サガポル長老は，自分がこの街で会うたいていの人よりずっと背が高いだけでなく，街の家々より高いことにも気づきました。なにしろ建物は長老のあごくらいまでしかないのです。

１軒の家に近寄ると，サガポル長老より数カ月先輩の長老が，若いサモア青年のサガポル長老の方を振り向き，ノックするよう促しました。香港に赴任したばかりのサガポル長老にとっては初めてのことであり，それは生涯忘れられない経験となりました。

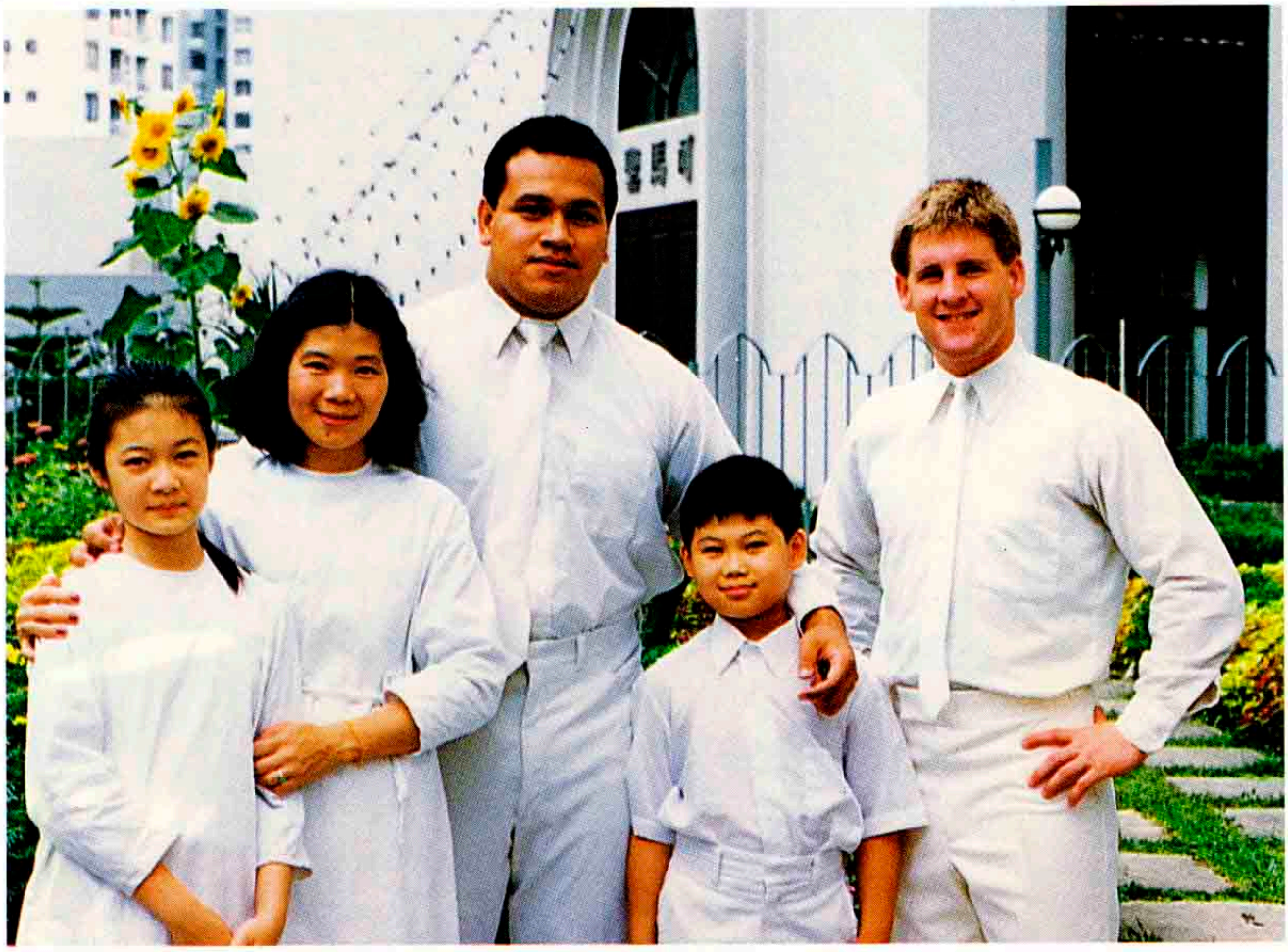
サガポル長老は，ノックしようとして緊張に震えました。「口の中が渇いて，開かなくなりました」と長老は当時を思い出して語ります。それでも長老は，勇気を奮い起こして，ひざをついて小さなドアをノックしました。

「ノックするためひざをついたとき，うっかり自分の力が強すぎて加減しなければいけないのを忘れていました。加減どころかノックする必要もなかったのです。なぜなら私の手は緊張のあまり大きく震えていたので，ただドアに触るだけで，ひとりでにノックできたのでした。」力を入れてノックするとどうなるか気づく前に，ドアは押し倒されてしまいました。サガポル長老はうろたえながらも，人が来る前に何とかドアを起こして，ちょうつがいのところに戻そうとしました。

そこに突然年輩の女性が現われ，ドアを開けたために，そのドアは女性の上に倒れてしまいました。彼女は悲鳴をあげました。「私は同僚を引っぱり，私の前に押し出して言いました。『この人と話してください。』戸が倒れかかってきたときの，その小柄な年輩の女性の顔を私は忘れることができません。」タビタにとって，今ではそれも伝道中の懐しい思い出のひとつとなっています。

生涯の夢

伝道に出ることは，タビタにとって11歳のころからの夢でしたし，その夢を実現するうえで障害となるものは何ひとつありませんでした。タビタは，帰還宣教師が話してくれる霊的な経験談をそばに座って聞くのが何より好きで，日に日に，自分も伝道に出たいという気持ちが強まっていきました。タビタは単科大学の１年生だった



タビタ(中央)と同僚，
初めてバプテスマを
施した家族と一緒に。
「香港への召しを受けたときは，
『120キロ以上もあるサモア人が
香港まで行って何ができるのだろう』
と思いました。
でもすぐに，天父が
私にそこで伝道するよう
望んでおられることがわかりました。」
タビタの強い信仰は，
ひとつのことに限らず，
いろいろな方面で，
人々を高める
助けとなっています。

とき，マノアにあるハワイ大学からフットボール奨学金を受ける準備をする一方で，その大学で2年間宣教師として主に仕えるための休学が許可されるかどうかの確認も取っていました。

栄えある伝道を終えて帰還すると，ハワイフットボールチームの元のポジションに復帰し，昨年の秋には選手としての活動を再開しました。

タビタは，アメリカ領サモアで生まれましたが，4歳のとき，家族と共にハワイに移り住みました。タビタは，15人兄弟の14番目ということで，「ぼくは言ってみればロープの端っこみたいなものなんですよ」と笑います。

サモア族の文化では，家族は大変重要な位置を占め，大家族ほど尊敬されます。同時に大家族の両親はとても尊ばれます。「大家族であれば，大勢の兄弟姉妹が互いに助け合うことができます。また，互いに長所を伸ばし合い，道徳的にも支え合っていきます。兄弟の中のだれかが助けを必要としているときはいつでも，ほかの兄弟がそこにいてくれました。たとえどこにいても助けに駆け付けるのです。それは今でも同じです」とタビタは説明してくれます。

タビタの兄や姉は成人すると，働いて家族の生活を支

タビタの良い特質は，
宣教師のレクリエーション大会の出し物で
よくうかがい知ることができます。

え助けるようになりました。父親は外で働き，母親は家にいて子供たちを育てました。

15人の子供たちは，教会の福音の中で育ち，福音は，子供たちの生活に重要な役割を果たしました。「私は，両親がいつも良いことをするように励ましてくれたことに，心から感謝しています。これまでいろいろなことがありましたが，教えられた標準を守り通すのに，何の問題もありませんでした」とタビタは言います。

ダビデとゴリアテ

たいていの人は，長身で筋骨たくましいタビタに初めて会うと，恐れをなします。しかし，タビタが話し出すと，朗らかな，愛に満ちた気持ちがすぐに伝わってきて，恐れは取り去られるのです。「私は，サモア人は柔和で，やさしく，親切な民族だと知ってもらいたいと思ってい

ます。私たちは，他人を敬うことはもちろん，何よりも大切なのは，自分にしてほしいことを他人にも行なうようにすることだと教えられてきました」とタビタは語ります。

タビタは大柄ですが，粗暴でも短気でもありません。実はタビタという名前は「ダビデ」を意味しています。外見はゴリアテのようですが，旧約聖書に出てくるダビデ王と共通した勇気と忍耐という彼の特質は，名前の意味するところそのものなのです。

タビタは，少年のころから忍耐を学んできました。ちょうど人生に目標を必要としていた13歳のとき，友達が重量上げに誘ってくれました。そして14歳になるころには，自分の体重のほぼ2倍の重さを持ち上げることができました。

「人は皆，外見や競技ばかり見て，14歳の私を20歳だと思い込んでいました。でも大人と同じような体格とはいえ，まだ遊んだりテレビ漫画を見たりするのが大好きでした。」

それから数年間で，タビタの体力はさらに強まり体格も向上しました。タビタは周辺地域の重量上げ大会に出場し，あちこちで優勝しました。15歳のとき，アーカンソー州のリトルロックに遠征し，そこで重量上げの14歳から17歳のクラスで優勝しました。その後，タビタは，5年間ナショナルタイトルを保持したのです。18歳のときには，スクワットリフト(重量上げの種目のひとつで，バーベルを肩に担いで立った状態から一度しゃがみ，再び立ち上がる方式)で，412キロの記録を作りました。

高校時代，タビタは重量上げとフットボールに優れた成績を残しました。高校に入って最初のシーズンで，すでにフットボールの州代表チームに加わり，次いで全米選抜チームの一員となりました。彼は次々と賞を獲得していきました。「フットボールと重量上げでいい成績を出せたのは，このふたつの競技が私にとって何よりも好きなものだったからでしょうね」とタビタは言っています。

自己訓練を学ぶ

しかし，タビタが優秀な選手だったのは，これらのスポーツが好きだったためばかりでなく，厳しい自己訓練のたまものでもありました。この自己訓練は，香港伝道部へ派遣される準備として広東(カントン)語を学ぶときにも大いに役立ちました。「香港への召しを受けたときは，『120キロ以上もあるサモア人が香港まで行って何ができるのだろう』と思いました。でもすぐに，天父が私にそこで伝道するよう望んでおられることがわかりました。」

最初のうち，タビタは，新しい言葉を修得するのにとても苦労しました。そのため，福音への強い証を伝えることができなくて落胆したことが度々ありました。「しかし，忍耐と祈りによって，つらい時期を乗り越えることができました。また，この経験を通して以前には考えられなかったほど天父を身近に感じることができるようになりました。あまり祈りすぎて，ひざにたこができてしまったくらいです。」

忍耐と堅忍によって，タビタは伝道で成功を収めました。タビタが身に付けた良い特質は，伝道後も引き続き学業やフットボールに成果を上げました。高校時代，彼は自分ができることを何か人に示さなくてはならないと考えていました。しかし，今では，天父に自分のふさわしさを証明するだけでいいということに気づいたのです。

タビタは，安息日を除く週6日間の練習を欠かしません。「私は，天父がくださった体を鍛えることに誇りを感じます。それによって，霊と肉体を清くふさわしく保つことができるからです。」

模　範

タビタはまた，教会員かどうかにかかわりなく，すべての友人の良い模範になろうと努めています。周りの人々に良い影響を与えたいと望んでいるからです。しかし，一番大切なのは，主との関係です。「天父と私との関係は，どこか自分の両親との関係に似ています。私は，天父からいただいた能力を最大限に使って，主に仕え，主のみ旨を行なっていきたいと思います。」

タビタの父親は先ごろ亡くなり，母親はカリフォルニア州に住んでいます。しかし，機会あるごとに家族が集まり，楽しく過ごしています。タビタは，特に兄弟やいとこたちと自動車をいじるのが好きです。「私は，自動車を整備するのが好きです。自分の手と道具を使って何かするのが好きなんです。物を手入れしたり，修理したりする才能が与えられてるんじゃないかと思います。父は機械技師でしたし，ほかの兄弟たちも機械技師になっていますしね。」

タビタは，教会の若い会員に熱心にアドバイスをしています。「伝道に出てください。特に19歳の男性は，今すぐ召しを受けてほしいと思います。伝道の2年間は生易しいものではありませんが，生涯の中で最良の2年間となるでしょう。」

タビタはまた，教会の青少年たちに，日々の生活の中で福音の大切さを学ぶように勧めています。

「教会に活発に集ってください。また，天父との関係をもっと身近なものにしてください。私もこのふたつのことに支えられているのです。」

そして，このような態度こそ――彼が立っているか，ひざまずいているかに関係なく――タビタ・サガポルを確かに霊的な意味でも巨人にしているのです。□

最後のキャンプ

ジャック・ウェイランド作

「私はもう死ぬんだろう?」と父親に尋ねられて，トレーシーは言葉に詰まってしまいました。

トレーシーの父親に退院許可が下りたのは，自宅で最期をみとられるようにとの配慮からでした。がんの発見が遅すぎたために，転移して手の施しようがなかったのです。トレーシーの父親が死の告知をされなかったのは，父親のためを思ってのことばかりではありません。母親が夫に本当のことを打ち明ける前に，彼女自身がこの状況にしっかりと対処できるようにいくらかの時間が必要だったのです。

当時18歳だったトレーシーは，高校生活最後の数週間を何も手につかないまま過ごしました。やがて夏が来て，彼は高速道路の測量員として働きましたが，ただ週末の休みが来るのを待ちわびているだけでした。

週末になると，トレーシーの３人の兄はそれぞれ妻を連れて遠くから飛行機でやって来て，１日か２日父親と過ごしては仕事のために帰って行くのでした。

ある日，父親はトレーシーを部屋に呼び入れました。部屋はほの暗く，苦しみの臭いが漂っているようでした。ベッドのそばに置かれたテーブルには，コップと薬のびんがいくつか散らかっていました。

「父さんが今までに，おまえにうそをついたことがあったかね」と父親は尋ねました。

「なかったよ。」

「それなら，正直に答えてくれないか。私はもう死ぬんだろう?」

そう言われてトレーシーは言葉に詰まってしまいました。兄夫婦がよく使う「すぐに良くなって，起きられるようになるさ」というような希望的な返事を探そうとしました。しかし，彼はそんなふうにはとても言えませんでした。

「死ぬんだろう?……がんで」と父親はもう一度尋ねました。

「実は……そうなんだ」とトレーシーは答えました。

父親はため息をついて静かに言いました。「やっぱりそうだったか。」

それから数週間，父親は必要なことをすべて片付けました。弁護士を呼んで，遺言や金銭上の取り決めをしました。そして相応の価格のひつぎと墓地を，自分の埋葬のために選びました。

それから彼はベッドに身を横たえる生活に戻り，辛抱強く死を待ちました。しかし死とは眠りと同様で，身構えたからといってすぐに訪れるものではありません。実際少し回復したかのよう

ILLUSTRATED BY RICHARD HULL

にさえ見えました。

7月のかなり暑い日のことでした。父親が寝室の窓から外を眺めて「釣りに行きたい」と言いました。

もちろんそれは無理な話です。母親も無理だと言いました。兄夫婦とて同じように言うでしょう。近所の人が聞いても同様でしょう。

しかし，医師は「もし本人が行けると感じていて，しかもだれかが一緒にずっと付き添えるのでしたら，行かせて差し上げたらいかがですか」と言うのです。

こうしてトレーシーが，山に父親を最後の釣りに連れていく役を引き受けることになりました。

プランを練ったり，食料品を買い込んだり，薬をそろえたり，母親が書き並べた父親の看護の仕方を読んだりして，数日が忙しく過ぎ去りました。そしてある土曜日の朝，トレーシーは小さいキャンピングカーの試し乗りをして，父親を乗せる最終チェックをしました。

キャンピングカーのひび割れた床のすり切れた通路を見ながら，ぼくが大きくなるまでここがずっと父さんの教会だったんだと，トレーシーは思いました。

トレーシーが思い出せる限り，父親はずっと教会から遠ざかっていました。昔，教会のだれかが父親の感情を害して……もうそれも，一体だれが何をしたのか，今ではひとりとして思い出せる人はいません。しかし，その出来事は父親を20年間も教会から離れたままにするほどのことだったに違いありません。その間，彼が教会に足を運んだのは，息子たちが何か特別なことをするときだけでした。

トレーシーが生まれて以来ずっと，父親は日曜日を自分の日と考えていました。「1週間のうち6日間，店で一生懸命働く。せめて1日ぐらいは自分のしたいことをしてもいいんじゃないか」と。この言葉はつまり，日曜日に彼が，春と夏は釣りに行き，秋は猟に行き，そして冬には家の手入れをすることでした。

トレーシーはキャンピングカーを渓谷の上流へと走らせました。父親は前の座席に座り，道に沿って曲がりくねって流れている渓谷を黙って見つめていました。

「ここまで登って来るまで，どんなに美しかったかを忘れていたよ。父さんはこの土地をほかのだれよりもよく知っているよ。どの道も，どんな丘も，川のくねりもすべて。皆知っているよ。川が鉄橋の下を流れているあの場所が見えるかい。そのちょうど真下の，岸の突き出た所が，釣りのポイントなのさ。ちゃんとした釣り道具を使えば，おまえでも必ずブラウンマスが2，3匹は釣れることを保証するよ。」

「簡単そうに言うけど，ぼくがやってもうまくいかないよ。」

「そうだな，父さんはこの川で20年間も釣りをして過ごしてきたんだからな。ほかの人よりは，いろいろと知っているだはずだ。そうだ，おまえに釣りのポイントを全部書き残しておこう。この川のことをこれだけ知ったんだ。だれかの役に立てなきゃな。」ふたりは，黙って数キロ車を走らせました。その間，父親は川やそれぞれの釣り場の様子を調べていました。

トレーシーは，川や釣り場の様子さえ見れば，父さんは実際に糸を垂れなくてもいいのだろうかと思いました。

「ふたりでもっと何度もここへ来たらよかったなあ。」

「母さんが，日曜日には絶対ぼくを来させてくれなかったと思うよ。」

「そうだな。母さんはおまえがそうすることには，絶対に反対だったからな。」

「でも父さん，土曜日なら来れたのにねえ。」

「そうだな。できたろうにな。」父親は少し悲しそうに言いました。

「もしもアシスタント・マネージャーがいたら，店はその人に任せて，ここに来れただろうけどね。やっぱり，土曜日は，店の一番忙しい日だからな。」

「わかってるよ。父さんはいつもそう言っていたもの。」

運転しながらトレーシーは思いました。「ぼくたちはお互いによくわかっていない。ぼくは父さんについて，あまり知らないし，父さんもぼくのことを，本当にどれだけわかっているんだろう。」

じきにふたりは湖に着き，キャンプする場所を見つけました。そこは数年来，父親のお気に入りの場所で，幸いだれも来ていませんでした。そこは湖に向かう道沿いに点在するキャンプ地の一番奥で，丘の上に位置し，湖や山々のすばらしい景色が楽しめました。昼食後，父親は薬を飲んで昼寝をしようと横になりました。

昼もだいぶ過ぎてから，父親は目覚めました。

「ああ，いい気持ちだ」と幸せそうに言いました。「この山の空気は，世界中のどんな医者よりも，私にとっては効き目があるよ。さあ釣りに行こう。」

トレーシーは，折り畳みいすをふたつ持って下りました。それから釣りの道具を持って行き，最後にお母さんがお父さんに絶対に使わせるようにと約

束させた日よけを持って行きました。こうして準備が整うと，父親に付き添いながら湖への細い道を下りました。

2時間くらいの間は，大したことも起こりませんでした。しかし突然，父親が大声を出しました。魚がかかって，釣りざおが大きくしなったのです。と同時に湖の岸辺から30メートルほど離れた所で，大きなマスが水の中から跳ね上がりました。マスは頭を前後に振って，釣り針から何とか逃れようとしています。

「10キロはあるぞ。」父親は興奮して叫びました。

人と魚の長い戦いでした。魚が力を弱める度に，ゆっくりと確実に釣り糸を巻き上げて岸の近くへと引き寄せるのです。魚は6メートルぐらい離れた所まで来てから，深みへ戻ろうとして2回も強く引っぱりました。

「父さん，見えたよ。すごく大きいよ。」

ついに戦いは終わりました。

「網を取ってくれ，トレーシー。さあ，用心しろよ。」

トレーシーは湖水の近くに立って，魚がちょうどうまい具合に近づくのを待ちました。そして，長い柄の網を水に入れて疲れ切っている魚を水から揚げると，魚は猛烈に跳ね回りました。

「すばらしい。」父親は，厳かな調子で言いました。

トレーシーは，大きなナイフを持ち上げ，魚をこれ以上苦しめないために，ナイフの柄で魚の頭を強くたたこうとしました。これは以前，父親から教わった方法でした。

「殺すな!」父親は大声で言いました。「捕まえたくないんだ。」

「何言ってんのさ。」

「生かしておいてやりたい。こいつはこの湖の者だ。こんなに勇敢に戦ったんだ。死なせるわけにはいかない。釣り針をうまく外せないだろうか。」

トレーシーは，えらの部分を持って魚をつかみました。釣り針が突き刺っている場所を探してみると，のどの奥深いところでした。

「父さん，釣り針を飲み込んじゃってるよ。殺さずに取ってやることなんてできないよ。」

「それなら糸を切って水へ帰してやれ。さあ，早く。」

トレーシーは，ナイフを取って魚の口から糸を数センチ残して切り，静かに水の中へ戻してやりました。しばらくじっと横たわっていましたが，魚は自由になったことがわかると水中深くへとすばやく泳いで逃げました。

トレーシーはこの湖で今までに見たこともないような大きな魚だったのに，なぜ放してしまったのかと不思議に思いながら父親の方を振り返りました。

「あいつは今，自由なんだよ。自由に水中を泳ぎ回っている。私たちの決して見つけられない所に行ける。捕まえなくて本当に良かったよ。そうは思わないかい。」

大きな衝撃を残してあの魚が去った後は何かぱっとしなくて，ふたりは釣りをやめて道具を再び車に積み込みました。

「おまえはどう思う。この夏，何週間か，一緒にカリフォルニアへ行かないか」と父親は，あの魚を釣った興奮にまだ酔いながら尋ねました。

「カリフォルニアには父さんと同じような病気の人が治療を受けている病院があるんだ。車でも行ける場所でね。そこでは父さんよりも病気の進んだ人でも治せると言っているんだよ。」

父親は何年もトレーシーが見たことがなかったほど，積極的になっていました。

「どんな病気だって，その気になれば食い止められるものじゃないだろうか。ただ座ってやっつけられるのを待つ手はないだろう。おまえと父さんだけなら1，2週間で準備して出掛けられる。そして父さんがすっかり良くなったら，母さんを飛行機で呼んで落ち合うんだ。母さんにカリフォルニア中を見せてやって，それから少し休暇を取って，3人でメキシコや中米まで南下してパナマ運河をボートで渡ろう。どうだい，いい考えだろう?」

キャンプ場でトレーシーが夕食を料理する時間になっても，父親はメキシコへ行くことを話していました。トレーシーは，ハンバーガーを作って豆の缶詰を開けました。父親が薬を飲んでから，ふたりは夕食を食べました。

やがて厚い雲が立ちこめてきて，夜にはふたりは激しい雷雨の真っただ中にいました。雨が風にあおられて，湖面のところどころを激しく打ちつけている様を，トレーシーは車の中から見つめていました。何度かふたりの回りで，稲妻が激しい音を立てました。

額が汗でぬれて，父親は一瞬にして老け込んだように見えました。それからは父親は薬を飲んで寝てしまい，トレーシーは起きて本を読んでいました。

11時に，父親は起きてせきをしたかと思うと吐き気をもよおしました。そして，夕食に食べたものを戻してしまいました。

トレーシーはベッドから出て，懐中電灯をつけました。父親はベッドの上に体を起こし，苦痛で体を折り曲げていました。

トレーシーは，なべに水を入れてタオルで床の汚れを掃除し始めました。

「すまんな，本当に」と，父親は何

度も繰り返し，「きっと，薬のせいだろう」と言いました。

トレーシーは床の始末を終えると，ふきんを取ってきて父親をできるだけきれいにふいてあげました。そして，汗でぐっしょりになったパジャマを脱いで，古いズボンとシャツに着替えるのを手伝いました。

初めのうち父親は，痛み止めの薬を飲むのを嫌がりました。夜が更けるにつれて，父親はベッドの端に座って，前後に体を揺すり，頭を垂れ，歯を食いしばって痛みをこらえていました。

ついに1時になると，痛みに我慢し切れなくなって，また吐くのを覚悟で，パン一切れと薬をくれと頼みました。

「あの魚も今晩は痛がっているだろうか?」と父親は薬を飲んでから尋ねました。

「わからないよ，父さん。ただの魚だもの。」

「あいつは，すぐそこで泳ぎ回っているんだ。一息ごとに，釣り針が突き刺さるのさ。」

「大丈夫だよ。」

「どう思う。命を助けられて父さんに感謝しているんだろうか。それとも，いつまでも苦しめられて父さんをのろっているだろうか。」

「気にしない方がいいよ。」

「あいつが食べたり飲み込んだりしようとする度に，釣り針がのどに突き刺さるんだ。やっぱり殺してやった方が良かったかもしれないな。多分，死なせてやるべきだったよ。」

「父さん，お願いだからもう寝てよ。」

「おそらく，あいつはもう死んだかもしれない。腹を上に向けて水に浮かんでいるだろう。」父親は立ち上がり，湖を見ようとして窓の方へ歩いて行きました。激しかった雨は濃い霧雨に変わっていました。

「何をすべきであったかを知るのは，とてもむずかしいことだ。……魚1匹

に対してさえ，神のように振る舞おうとしても，こんなにむずかしいんだからな。」

トレーシーは，ベッドに戻り，父親もすぐに休んでくれれば良いがと思いました。しかし，父親は窓のそばにずっと立って，夜のやみをじっと見ていました。

トレーシーは眠りに落ちていました。しかし数分後彼は，ドアが閉まり父親が夜の暗やみの中へ歩いて出て行く物音を聞きました。

トレーシーはベッドから飛び起き，急いで服を着て外に出ました。

数分後トレーシーは，父親が湖のふちに懐中電灯を手にして立っているのを見つけました。水面をあちこち照らしているのです。

「父さん，こんな所で一体何やってるんだよ。」

「いや，あの魚が死んでいるのではないかと思ってね。」

突然，トレーシーは怖くなりました。でも彼は，父親を力づくでは車まで連れて行けないことはわかっていました。そうするには父親は大きすぎました。

「父さん，中へ入ろうよ。雨が降っているんだから。」

「それはわかってるんだが……。」父親はそう言って，水面をあちこち懐中電灯で照らしていました。

「父さんがこんなに雨にぬれて外にいるのを母さんが知ったらきっと仰天するよ。さあ，戻ろうよ。」

やっと父親は納得して，トレーシーの方を向きました。「あいつは，腹を上にして浮いていない。まだ生きているに違いない。さあ，帰ろう。」

トレーシーは，父親の腰に腕を回して，細い道を上るのを助けました。

「おまえは，父さんのことを，祈ってくれることがあるかい。」

「うん，祈ってるよ。」

「何てお祈りしてくれているんだい。」

「父さんが良くなるようにって。」

「もうそのことは，祈らなくていいよ。『神様のみこころのままになさってください』と祈っておくれ。神は何が一番良いのかをご存じであると，我々は信じるべきなんだ。おまえも父さんも，魚1匹のことさえ満足に決められなかったじゃないか。」

ふたりは，キャンピングカーに戻っ

て，朝まで眠りました。

翌朝，トレーシーが目を覚ますと，厚い雲が空を覆い，雨は降り続いていました。父親は10時に目を覚ましました。トレーシーは，温かいシリアル(注：コーンフレークやオートミールなどの朝食用穀物食)を用意して，父親のためにインスタント・コーヒーを作りました。

「きょうは日曜日だったね」と父親は聞きました。

「そうだよ。」

「初めて日曜日に教会を休ませて，連れ出してしまったな。おまえをここへ連れて来るんじゃなかったよ。特にこの天気じゃな。きょうは釣りをするのはやめとこう。もちろん，釣りは雨が降ってても，とてもいいときもあるよ……もし，おまえが釣りがしたいのなら。」

「いいんだ。釣りはもういいよ。」

「父さんはきのう言ったことを考えていたんだがね。……カリフォルニアへ行くって話さ。もし我々が出かけたら，貯金を全部使い果たすだろう。向こうじゃ保険がきかないからね。そのうえ，治療が効かなかったら母さんは無一文になって，どうしようもなくなってしまう。」

トレーシーは心が痛みました。カリフォルニアは，父親の病気が良くなるという最後の希望だったに違いありません。でも，その希望が消えてしまったのです。

「たぶん父さんはパナマ運河を見ることはないだろうな。」父親はコーヒーカップから目を上げながら言いました。「さあ，ふたりで何でもできるうちに，ここでできる最善のことをやっておこうじゃないか。」

トレーシーは，シリアルを作ったなべを乾かしながら，涙がこぼれ落ちるのを見られないように背中を向けていました。

「私は，おまえの伝道資金と大学の学費の一部にと思ってお金をいくらか蓄えておいた。でもほかに何か父さんにしてほしいことがあったら，今話してくれないか。家へ帰る前にな。」

トレーシーには父親にしてほしいことがありましたが，思い切って頼んでいいかどうかわかりませんでした。父親には予想もできないことであるとわかっていたからです。

「父さん，父親の祝福をしてほしいんだ。」

父親は，悲しげに首を振りました。

「それはできないよ。父さんは長老ではないからね。どうして父親の祝福をしてほしいのかね。」

「ぼくは生まれてからずっと，聖任されたり神権の祝福を受けるときは，ほかの人にしてもらったんだ。ときには，まったく知らない人たちから。でも，ぼくが望んでたのは，父さんにしてもらうことだったんだ。ぼくの父さんからね。」

「ごめんよ。それほどまでおまえにとって意味のあることだったとは知らなかったよ。」

「ぼくは，よく考えていたんだ。ぼくが一生懸命に，良い子になれるように頑張れば，父さんも教会のことをわかってくれて，教会に戻ってくれるだろうって。父さん，ぼくは学校の友達がやっているような悪いことは何もしなかったよ。それなのに，父さんはなぜそれでも教会を好きにならなかったの。」

「わからないよ。」

「父さんは気づきさえしなかったの? ぼくがいい子にしていることは，当たり前だと思っていたの? そして今になっては，もう遅過ぎるっていうの? 父さん，お願いだから父親の祝福をしてよ。」

「できない。もし神権の祝福をしてほしいなら，監督かホームティーチャーのところへ行ってくれないか。」

「監督やホームティーチャーはぼくの父さんじゃないよ。できるのは父さんだけなんだ。」

「本当に父さんにはできないよ。メルキゼデク神権を持ってないからね。」

「たとえ父さんが大神権を持っていなくても，ぼくは父さんから祝福をしてもらいたいんだよ。もし嫌じゃなかったら，ちょっと父さんの手をぼくの頭の上に置いて，お祈りしてみてよ」とトレーシーはせがみました。

「いや，できない。どうか父さんに頼まないでくれ。どうしていいかわからないんだ。神様は，父さんが何を申しあげたとしても，どうせ聞いてはくださらないだろう。」

「ぼくが聞くよ。そんなの問題じゃないよ。お願いだから。もしかしたら父さんから祝福を受けられるチャンスはもうないかもしれないんだから。」

父親は，キャンピングカーのいすに座って，長い間窓の外を見ていました。

「お願い，父さん。」

「どうすればいいんだい。」

「そのままいすに座ってて。父さんの手をぼくの頭に置けるように，ぼくがひざまずくから。」

トレーシーは，父親の前にひざまずきました。

「何と言えばいいんだい。」

「ただ，お祈りをすればいいんだよ。」

トレーシーは，父親の大きな手が自分の頭にやさしく置かれるのを感じま

した。

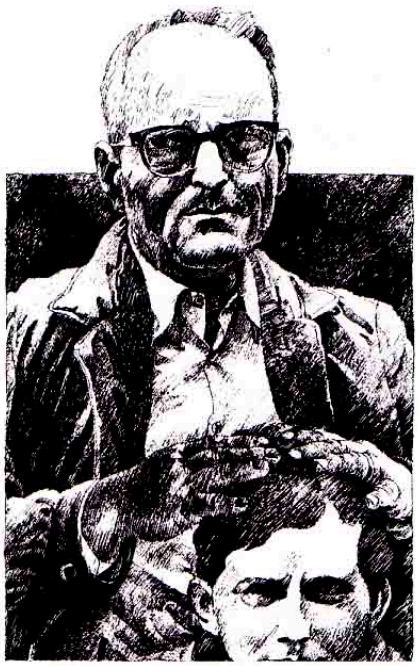
父親はゆっくりと祈り始めました。「神よ，トレーシーは，私にこうするようにと願いました。私は，ふさわしい神権を持っておりません。しかし，トレーシーが私にただお祈りしてくれればいいのだと申します。」父親は少し間を置くと再び続けました。「トレーシーはずっと，とても良い子でした。いつも良い子でした。それは，私の影響ではありません。私は，もっと良い模範を息子に示すことができたでしょう。ただ，食べるものに不自由しないようにはしてきました。そして，正直と勤勉についてだけは教えてきました。だれが息子に仕事を与えても，トレーシーはきちんとやり遂げることでしょう。仕事をきちんと終わらせることのできない人はたくさんいます。モルモンの中にさえいます。」

トレーシーは，涙がとめどなく流れるのがわかりましたが，気にも止めませんでした。

「神よ，あなたもご存じのように私は生涯でなすべきことをあまりいたしませんでした。しかし，トレーシーは，とてもよくやってきたと思います。ただよくやってきたという言葉以上の良い行ないをしてきたと思います。世の父親の中でも，最もすばらしい息子をいただきました。神よ，どうぞ息子をお守りください。息子はあなたのみ守りを必要とするでしょう。なぜなら，私はもう死ぬ身だからです。どうぞ，トレーシーをお助けください。今の私がお願いしたいのはそれだけなのです。」

トレーシーを締めつけていた心の痛みが一気に去っていきました。

不思議な静けさの中で，父親は続けて祈りました。「多分トレーシーは覚えていてくれると思います。私が父親としてした良いことを。そして私の過ちは忘れてくれるでしょう。彼が父親になったときには，忙しさにかまけて



息子を外へ連れ出さないとか，キャッチボールをして遊んでやらないなどということはないでしょう。私は十分してやれなかったことを承知しております。また，息子は，教会に熱心なあまり，コーヒーやビールを口にする教会員を見下したりするようにはならないでしょう。かえって，そんな人々を助けようと努めるでしょう。たばこを吸っている教会員たちをけいべつするような人には，ならないでしょう。」

父親は，しばらく黙ると，再び祈り始めました。「私は，もし一生懸命伝道する気があるならば，息子が宣教師に召されることを望んでいます。また私は，息子が神殿結婚をするようにと願っております。私はそう致しませんでしたが，やはりそれが結婚生活を始めるすばらしい方法であると思います。どうぞ，トレーシーを祝福してください。息子は良い子です。そして私は息子を愛しております。」長く間を置いてから父親は言いました。

「終わりにしよう，トレーシー。どういうふうにして終えたらいいんだい。」

トレーシーが父親に告げると，父親は祈りを終えました。トレーシーは，袖で涙をぬぐって立ち上がりました。

「これで良かったのかね。」父親は尋ねました。

トレーシーは黙ってうなずきました。言葉では到底，説明できるとは思えなかったからです。それからトレーシーは父親の背中に腕を回し，抱きしめました。

「そんなにおかしくはなかっただろう。まあ，祝福の効き目があるといいんだけどね」と父親は涙を流しながらも，少しほほえんでいました。

雨は朝食の間もずっと降り続いていました。

昼食後，父親は家へ帰ろうと言い出しました。その時間に出発すれば，家族そろって聖餐会へ出席するのに間に合うだろうと言うのです。

トレーシーの家族は，その後3回，日曜日に教会に出席しました。そして，それから，痛みがひどくなったため，父親は家から出られませんでした。ホームティーチャーがトレーシーと一緒に，毎週家で聖餐の祝福をしてくれました。そして，8月の終わりにトレーシーの父親は亡くなりました。□

女性一人一人に祝福を与える

扶助協会が強調すべきことの中に，人々に**手を差し伸べ**，日々の生活において**福音の原則の模範となり，人々を教える**ことがあります。私たち教会の姉妹はベンジャミン王の次のような勧告に従っています。「お前たちは自分の子供らに真の道を行う事と真面目でなければならぬ事と互いに愛し互いに助けねばならぬ事とを教えるであろう。」（モーサヤ４：15）

差し伸べる（extend）という言葉には，広め，大きくするという意味が含まれています。女性には自らの影響力を広める様々な機会が与えられています。ひとりのイスラエル人の娘がスリヤ軍に捕らえられ，その指令長官ナアマンの家で，召し使いになりました。ナアマンはハンセン病でした。娘はナアマンの病状を知り，ナアマンの妻である彼女の女主人に向かって，こう言いました。「ああ，御主人がサマリヤにいる預言者と共におられたらよかったでしょうに。彼はそのらい病をいやしたことでしょう。」（列王下５：３）ナアマンは，この娘の証に従って，予言者エリシャのもとを訪れ，癒されました。

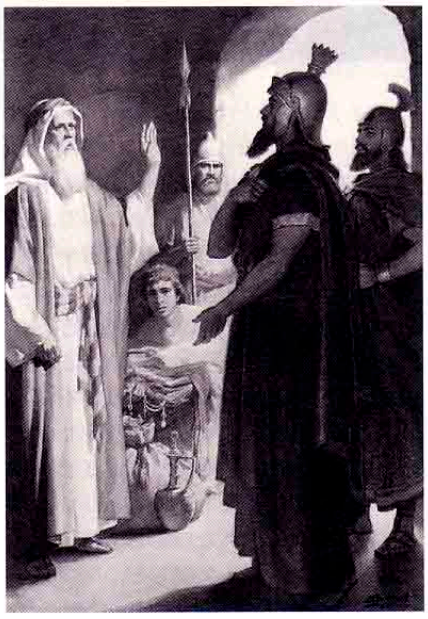
自分を捕らえた相手を救うために，この娘が手を差し伸べる必要はありませんでした。にもかかわらず，彼女がそうしたのは，予言者に対するあつい信仰，ナアマンとその妻に対する尊敬の気持ち，自分の中にある自信のためでした。娘の影響力は召し使いとしての立場を超え，助けの必要な人を援助できたのです。

人々に祝福を与えるために，私たちには何ができるでしょうか。

模範になるとは，自分の信じている内容と一致した行ないをするということです。プリシラ・サンプソン・デービス姉妹は，1963年，オランダを旅行中にモルモン経を手にしました。ところが彼女の生まれ育った国，ガーナには，1979年まで教会がありませんでした。この姉妹は16年間，アフリカに住むほかの改宗者たちと定期的に交流を保ちながら，バプテスマの日を待ったのです。

彼女が訪問して教えていた姉妹たちの中に，字の読めない姉妹がひとりいました。この姉妹にも福音の真理を深く味わう機会が持てるように，サンプソン・デービス姉妹はたびたび彼女に聖典を読んで聞かせ，その意味を説明しました。こうして，パウロがテモテに与えた勧告を実行していたのです。「言葉にも，行状にも，愛にも，信仰にも，純潔にも，信者の模範になりなさい。」（Ｉテモテ４：12）

© PROVIDENCE LITHOGRAPH COMPANY



どうすればキリストの純粋な愛の原則を，行ないをもって示せるでしょうか。

教えるとは，ほかの人が，どのような人物になりどのように行動すればよいかを学べるように，助けることです。

ナアマンの無名の召し使いもサンプソン・デービス姉妹も，それぞれ貴重な教訓を相手に教えるために時間を割きました。ふたりとも，教義と聖約の88章77節と78節で与えられた勧告を身をもって実践したのです。「またわれ汝らに一つの誡命を与う。すなわち汝ら互いにこの王国の教義を教ゆべし。汝ら熱心に教えよ，さらばわが恩恵は汝らに伴い……。」

熱心に福音を教えるときに恵みが注がれます。そうすることによって私たち自身の生活が豊かになるだけでなく，真理を学ぶ人々の心も私たちの教えによって啓発されるのです。

私たちを教えてくれた人々は，どのような祝福を生活にもたらしてくれたでしょう。□

人生における選択

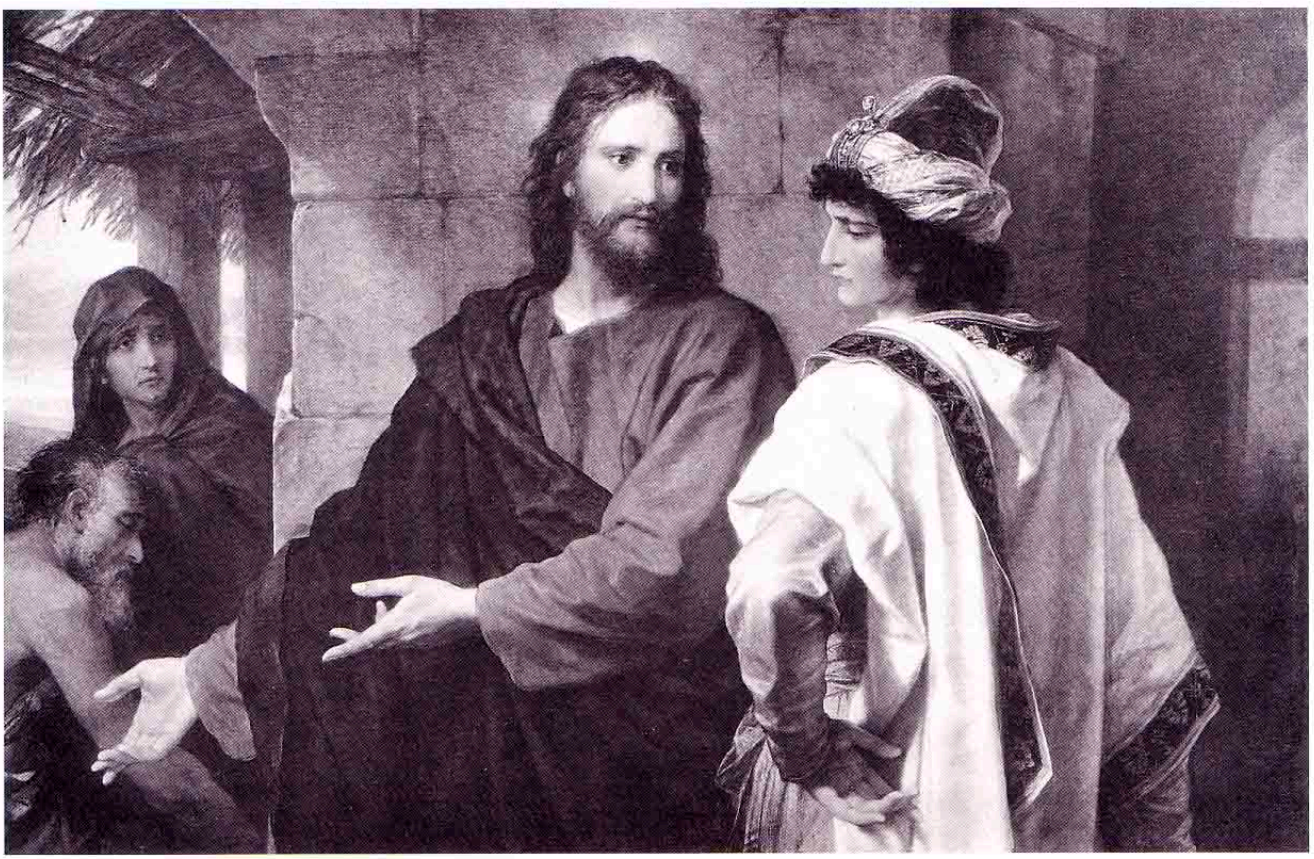
十二使徒定員会会員
ボイド・K・パッカー

これからある重要な事柄について皆さんにはっきりと理解していただきたいと思います。「はっきりと」という言葉をあえて使いましたが，自分の伝えたいことをどのような言葉で表現すればいいのか，本当に頭を悩ませました。私のメッセージを聞いても，多くの人が「そんなことは前から知っていました」と思うだけなのではないか，そして，単純で，二番せんじの退屈な話と見なされるだけではないかという心配があるからです。というのは，私が「はっきりと」理解していただきたいのは，実は平凡で，当たり前のことだからです。それだけに，その大切さを多くの人々に理解していただくのは至難の業なのです。

しかし，これから話すことこそ，イエスがキリストであり，神の御子であり，主の福音が予言者の手によって回復されたという事実の次に，私がぜひとも自分の子供たちに教えたい真理なのです。これから語る言葉は，そのような特別な思いで吟味したものです。

それは，もし自分が善良で優れた仕事をしていれば，最終的には多くの人から称賛を受け，高い収入が得られるはずだと，ほとんどの人が思い違いをしていることです。また，成功には，本質的な要素としてあり余るほどの富と名声が含まれている，とほとんどすべての人が思い込んでいる点です。この世の中は，そのような前提の下に動いているようですが，その前提はまったくの偽りです。それは真実ではなく，主の教えに反するものです。

しかしながら，このようなことについての真理は，教えるのも，学ぶのも非常にむずかしいものです。それほど有名でも高収入でもない人が，「私は，名声も富も成功するために必須のものではない，ということを悟りました」と語ったとしても，人々はそれを物質的に成功し



"CHRIST AND THE RICH YOUNG MAN" PAINTING BY HEINRICH HOFMAN

なかった人間の単なる言い訳として見なしてしまいがちです。自分を敗北者だと認めたくない人に，それ以外の言い方ができるだろうか，と考えてしまうのです。逆に，もし，ある人が名声も富もありながら，「どちらも成功や幸福とは関係ないものです」と語ったとしたらどうでしょう。そのような発言は，優越感の裏返しであり，見せかけの謙遜からくるものだと思いたくなるものです。

ですから，名声と富のある人が言ったとしても，ない人が言ったとしても，その言葉を信用できるものとして受け入れることはむずかしいのです。どちらの証言も，客観性という点から見て疑わしいからです。となると残された方法は，ひとつしかないということになります。すなわち，名声と富，そして，その反対のものについて，自らの力で，経験を通して学ぶという方法です。人生の荒波にもまれながら，ある人たちは，名声も富も得ることなく，結局のところ，その両方がなくても成功することは可能なのだ，と悟るかもしれません。また，ある人たちは，いつの日か，その両方を手にしたときに，そのどちらも真の成功と完き幸福を生み出す基本的な条件とはならない，と悟るかもしれません。しかしこの方法でひとつの真理を知るには，あまりにも長い年月を要します。

有名か無名か，富か貧困か，といった選択の仕方が間違っている，ということを私たちは一体いつになったら悟るのでしょうか。私たちが選択の基準としなければならないのは，それが善か悪かという点だけなのです。そうなると，問題はまったく別のものになります。このことを理解するに至った人は物質的な事柄，つまり，物質的な物の有無で自分が幸福か否かを決めなくなります。神は私たちに自由意志をお与えになりました。もし，人生で最も大切な選択は何なのかがわかれば，成功することができるのです。

このことについて，モルモン経には次のように記されています。「人は皆善悪をわきまえることを充分に教えられている。」（IIニーファイ２：５）また，次のようにも教えられています。「人はみな現世に於て自由であり，およそ人間のためになるものは何でも与えられる。そして万人に為したもうメシヤの大いなる賢い仲裁によって自由と永遠の生命とを選ぶか，または悪魔は万人が自分のようにみじめになることを求めているから，その束縛と力とに由って定まる束縛と死とを選ぶか，これは全く人間の自由である。」（IIニーファイ２：27）

名声と富とを追求するという物質的な誘惑のために，いにしえの時代から，人は何を選択すればよいのか惑わされてきました。今日の世の中でも，同じような誘惑のために不可解で，驚くような混乱が数多く見受けられます。

繰り返しますが，人生で最も大切な選択は有名か無名

幸福と成功を決めるのは，
物質的な物の有無ではなく，
より良いものを追求する姿勢と
他の人に奉仕する望みである。
「お前たちが同胞のために務めるのは，
ただお前たちの神のために
務めるのである。」
（モーサヤ２：17）

か，富か貧困かという選択ではありません。本当の選択は，善を選ぶか，悪を選ぶかという選択なのです。富も名声もありながら，同時に，永遠の生命という霊的な観点からも成功することは可能です。しかし，主は金持ちが永遠の生命を得るのは，らくだが針の穴を通るよりもむずかしいと警告しておられます。

では，もし，富も名声も理想的な目標とならないのであれば，どのようにして向上心を奮い立たせることができるのでしょうか。どのような目標に向かって努力すればよいでしょうか。

私は，ふたつの目標を提案したいと思います。ひとつ目は，何をするにしても最善を尽くそうという目標です。このこと自体がひとつの価値ある目標です。ですから，自分の持っている才能を，できる限り伸ばせるところまで伸ばしてください。バランスのとれた，価値ある分別を備えた人間となるように自分の可能性を引き出してください。

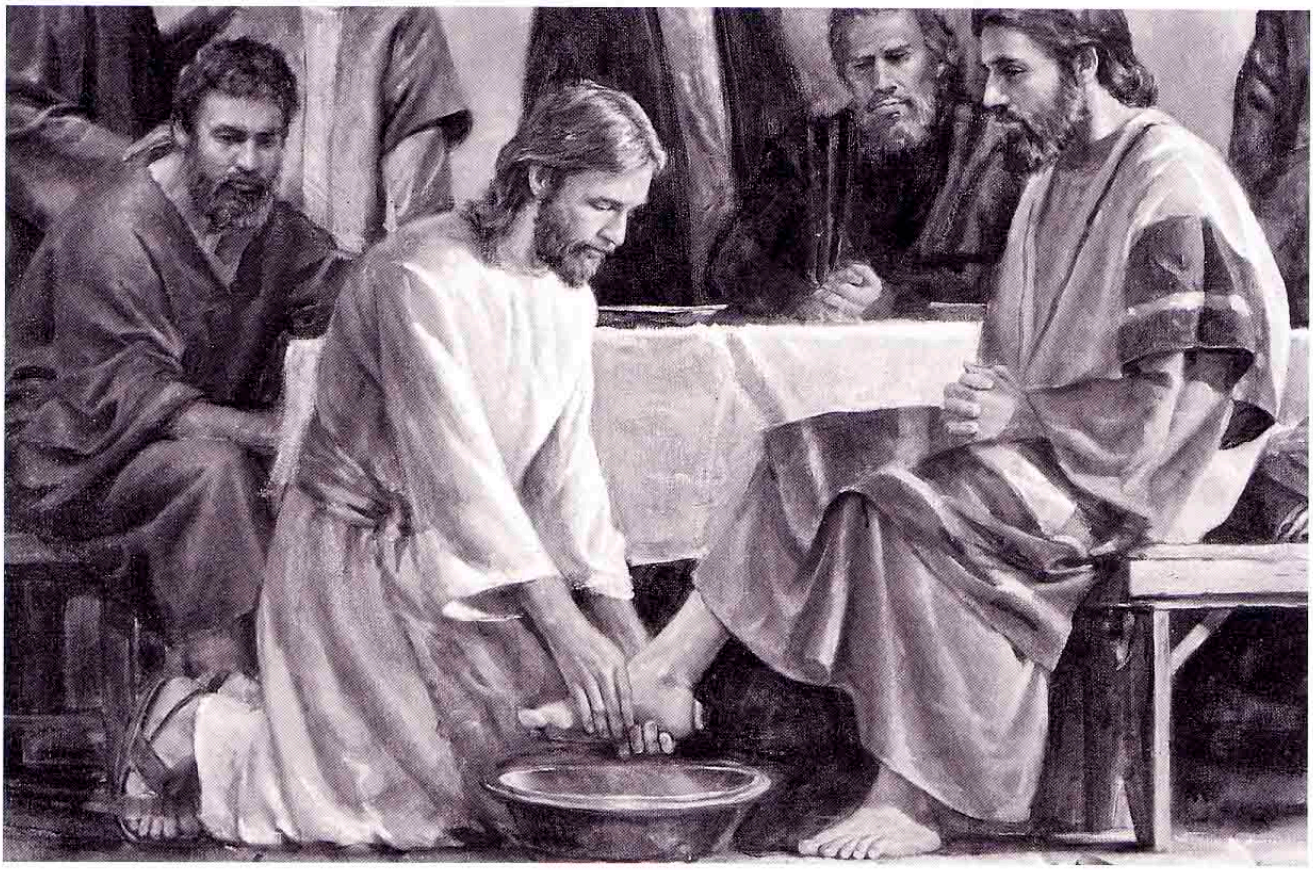
主は次のように言っておられます。「それだから，あなたがたの天の父が完全であられるように，あなたがたも完全な者となりなさい。」（マタイ５：48）

そしてふたつ目の目標は奉仕です。「お前たちが同胞（はらから）のために務めるのは，ただお前たちの神のために務めるのであることを悟らせるためである。」（モーサヤ２：17）

今，この時点で，皆さんが私の伝えようとしていることを理解してくださっているかどうか，私にはわかりません。しかし，私は，自分が教えようとしていることが真実であるとはっきりと知っています。名声と富を得たとしても，それがこの現世にあって真の幸福を得るための要素として絶対に必要なものではありません。同様に，名声と富を欠いたとしても，それが真の幸福を得るための妨げとはならないのです。

この話の最初の方で，私は自分の子供たちにも，今まで述べてきた真理について学んでほしいと申しました。私は，何世代もの時が経過した未来のことを心に思い描くことができます。私の子供たち，そして孫たちが，人生のいろいろな苦難と戦っているところが見えます。彼らが，名声を得ることもなく，また富を得ることもなくその生涯を全うするところが見えます。しかし，自分がひざまずいて，恵み深い神に感謝しているところが見えます。それは，私の祈りが聞き届けられ，私の子孫たちが本当の意味で成功し，幸福であることに対する感謝なのです。

幸福は，私たちが，自分の持っているものを使って何をするか，または自分の行ないの結果から何を学び，その後どうしていくかによって決まってきます。裁きの日にも，私たちの現世での名声や富の有無ではなく，こういったことによって裁きを受けるのです。□



ILLUSTRATED BY DEL PARSON

あの名前を どこで見たのでしょう？

スーザン・ワイマン

ワード部の家庭訪問主任として召されていた時，私は教会を離れている姉妹たちに努めて心を向けるようにしていました。自分がワード部にとって忘れられた存在ではないということを彼女たち一人一人に知ってもらうために，私はたびたび主に祈り，導きを求めたものでした。また，活発な姉妹たちに毎月手紙を書いてもらい，教会に来ていない姉妹たちが扶助協会の活動についてよく知ることができるように注意していました。

ある晩私は扶助協会会長に提出する家庭訪問の割り当て表を作るため，ワード部の会員名簿を眺めていました。すると，ワード部の区域内に住むある見慣れない姉妹の名前と住所が目に入りました。見覚えのない名前だったので不思議に思いましたが，私は彼女にも毎月ワード部の姉妹から手紙を送るべきであると強く感じました。

このことを扶助協会会長に提案すると，彼女も賛成し，ある姉妹に毎月手紙を書いてもらうことになりました。しかし，残念なことに何カ月も，その姉妹からは何の反応もありませんでした。そこでその割り当てを受けていた姉妹は，自分の住所を書いた封筒を同封して，引き続き手紙を送っても差し支えないかどうか返事をしてほしいという内容の手紙を出しました。すると，初めて返事が届いたのです。そこには，自分が何年か前に重大な罪を犯してしまい，宗紀上の処置を受けたこと，以来彼女が傷つき苦しんできたこと，しかし今は毎月の手紙を楽しみにしていることが書いてありました。

このことがあったすぐ後，私が新たな訪問教師の割り当て表を作成していると，その姉妹の名前が，以前見たワード部の名簿に今度は載っていないのです。過去の名簿も調べてみましたが，どこにも彼女の名前を見つけることができません。扶助協会の会長やワード部の書記にも聞いてみましたが，彼らもわけがわからないと言っていました。一体私は，彼女の名前をどこで見つけたのでしょうか。

……

夜中の2時ごろに私は深い眠りから覚めました。そして，このお休み会員の姉妹に今すぐ手紙を書かなければならないと心に強く感じました。

……

その時，私は彼女の名前がまさしく神様から与えられたものであると気がついたのです。

それから数週間後，夜中の2時ごろに私は深い眠りから覚めました。そして，この姉妹に今すぐ手紙を書き，私が彼女の名前と住所について経験したことを知らせなければならないと，心に強く感じました。その手紙を書いている間，みたまによって書くべきことが示されるのを強く感じました。

私がその手紙を送ってから一週間ほどたったころ，今度はその姉妹から電話がありました。彼女は長い間，自分がここにいることを主はご存じないのだと思い込んでいたのです。しかし，私の手紙を読んだとき，彼女は主が自分を忘れてはおられなかったことを知ったと話してくれました。

その後この姉妹は教会に戻り，現在も活発に集っています。□

＊スーザン・ワイマン姉妹：ニューハンプシャー州ナシューアステーキ部ナシューア第2ワード部所属。

PHOTOGRAPHY BY JED CLARK

氷の中のバプテスマ

ウェード・ブラッケンベリー

初めてキム・ヘイ・ゴク姉妹に会ったのは1989年11月のことでした。当時私は，韓国・ソウルの南方約30キロにある水原（スウオン）市で専任宣教師として働いていました。彼女を姉妹宣教師に紹介したのは，水原市から少し離れた松炭（ソンタン）市に駐留する米軍人のブライス・ウォマック兄弟でした。私たちのゾーンの宣教師はキム姉妹の働いていた孤児院を訪問しました。キム姉妹が忍耐強く愛情を込めて子供たち一人一人を世話する姿に接して，私たちは感動しました。

同じころ，水原市で街頭伝道しているとき，私たちはパク・ヒャン・ゴク姉妹に会いました。会って間もなく，私たちは彼女に福音を教え始めました。

このふたりの求道者は宣教師とのレッスンをすべて終え，強い証を得て，バプテスマを受ける決心をしました。バプテスマの日取りは1990年1月24日の日曜日と決まりました。私たちはいつものバプテスマ会の手配をみな済ませ，必要な準備が整っているか確かめるために集会所の管理人と監督に会いました。準備はすべて順調に進んでいるように見受けられました。

バプテスマ会の当日になりました。韓国の冬によくあるように大変寒い日でした。日曜学校の開会行事の後，私は管理人にお湯が出るかどうか聞いてみようと思いました。管理人からボイラーが壊れていてバプテスマは無理だろうと初めて聞かされたのは，そのときでした。

私たちはびっくりしました。すでにキム姉妹の友達の何人かはバプテスマ会に出席するためにはるばる松炭からやって来ていました。また15キロ離れた烏山（オサン）支部の3人の求道者もその同じバプテスマ会でバプテスマを受けることになっており，烏山支部の会員は全員出席する予定でした。

姉妹宣教師のグー・ジョン・ジャ姉妹と私は，何とか事態を解決しようと努めました。ボイラーを見ると，真空ポンプのヒューズが焼き切れていました。私たちは切れたヒューズを自動車用のヒューズと付け換え，ボイラーをまた元の状態に戻しました。

初めボイラーが動いたのを見て，私たちは大喜びしました。しかしその喜びもつかのま，ボイラーからフォントに水がまったく流れないのです。

原因はパイプの水が完全に凍りついていたためです。私たちは氷を解かそうとパイプに熱湯を3時間もかけましたが効果はありません。アーク溶接器を捜そうともしました。パイプを熱して中の氷を解かそうとしたのです。ところが，溶接器を貸してくれる人はだれもいませんでした。

時計はすでに午後2時を指していて，バプテスマ会を始める時間になっていました。烏山支部の支部長と会員も早くから到着していました。グー・ジョン・ジャ姉妹は，水原市内のすべての銭湯に電話をして銭湯でバプテスマができないかと尋ねましたが，場所を提供してくれる所はどこもありませんでした。

キム姉妹に事情を話すと，彼女はすっかり気を落としてしまいました。彼女はこれまで祈りを通してバプテスマを受けるべきであることを確信していると言いました。彼女はレッスンを始めたときに姉妹宣教師からもらったモルモン経を取り出し，モルモンの泉で少女にバプテスマを施しているアルマの絵の箇所を開けました。川か湖でバプテスマを受けることはできませんか，と彼女は聞きました。「それは無理だ。戸外は何もかも凍りついているし，大変な寒さだ。」周囲の人々は思わず口々に言ってしまいました。

監督は，どうしたらよいかを決めるために，私たちを監督室に呼びました。いつどこでバプテスマを受けるかは，彼女たち自身で決めるのがよいということで意見が一致しました。監督はふたりを監督室に呼びました。監督は，湖のある場所は知ってはいるけれども，バプテスマのできる入江まで行くには，バスに長時間乗り，その

後20分ほど歩かなければならないことを説明しました。

部屋の中では長い沈黙が続きました。やがてキム姉妹が口を切りました。彼女は，自分はすでに福音を受け入れていて，きょうこの日にバプテスマを受けると決心していることを繰り返し言いました。もし自分のなすべき分を行なうならば，主もご自身の約束を果たしてくださると信じています。氷の張った湖でバプテスマを受けることが自分のなすべき分であるならば，彼女は喜んでそれを行ないたい，と言いました。

私たちは湖でバプテスマを施す準備を始めました。フォーブス長老とマイナー長老は毛布を取りに宿舎に走って帰りました。ふたりの求道者はバプテスマの衣装に着替え，同僚のパーカー長老と私も同じように着替えました。私たちはバプテスマ会を教会の礼拝堂で開会し，それから，湖まで行くバスに乗り込みました。湖に着くと，たくさんの人がスケートをしていました。氷は厚く張っているに違いないと思いました。

監督は自分のトラックに乗って先に着いており，湖の向こう側に来ていました。私たちが監督のところに着くと，彼は一生懸命に大きな岩で氷に穴を開けようとしていましたが，うまくいきませんでした。同僚と私は湖岸の小さな家まで歩いて行き，戸をたたきました。韓国の伝統的な衣装である紫のハンボクに身を包んだ中年の男性が，戸口に出てきました。私は韓国語で氷に穴を開けなければならない事情を説明しました。彼は急いで家の奥に入り，手製の柄のついた古い斧を持って出て来ました。彼はそれを返してほしいとも言わず，ただほほえんで戸を閉めました。

私たちは湖に戻り，氷に小さな穴を開けて棒で水深を測りました。バプテスマを施すには浅すぎます。さらにたくさんの穴を開けて，その度に水深を測りました。こうして，水の深さがちょうどよい場所を見つけました。

バプテスマを施せる大きさの穴を開けるのに1時間かかりました。斧の柄が1度折れましたが，斧が沈む前に拾うことができました。氷は厚さが30センチほどあり，切り出した氷塊は，みな大きすぎて持ち上げることができません。私たちはその氷塊を氷の下に滑り込ませました。

ついにその凍った湖で，パーカー長老がパク姉妹に，私がキム姉妹にバプテスマを施しました。もう時刻は遅くなっていました。スケートをしていた人々の姿はなく，空は澄みわたり，空気は痛いほどに冷たく感じられました。けれども私は，バプテスマの水から氷の上にあがったとき，驚いたことに寒さを感じなかったことを覚えています。キム姉妹も同じ経験をしました。

私たちは身を寄せ合って，閉会の祈りを捧げました。それから毛布にくるまってバス停に向かいました。バプテスマを受けた姉妹たちは，着替えのために監督の家に行き，その間私たち宣教師は宿舎に帰りました。午後8時30分に，私たちは皆夕食を共にするために監督の家に集まりました。監督はバプテスマを受けたそのふたりの姉妹がその場で確認の儀式を受けるべきであると，強く心に感じました。私たちもそれに同意しました。

確認の儀式の間，そしてその後も，室内は平安な心地良い気持ちに満たされました。それは言葉では表現できないほどの平安でした。このふたりの姉妹たちにとって，あのいてつく極寒の日にバプテスマと確認を受けたことに，深い意味があったに違いないと私は心から信じています。ふたりの信仰と勇気は，謙遜な韓国の教会員の特質をよく表わしています。□

湖上の氷を割って作った「バプテスマフォント」の前で記念写真に収まる出席者たち。寒気をよそに幸せそうな，バプテスマを受ける姉妹と宣教師，友達の面々。

あなたは勝てる

どんな大きな問題にも

PHOTOGRAPHY BY WELDEN ANDERSEN

「神にはなんでもできない事はない。」（マタイ19：26）

回復された誓約

ユタ州ソルトレークシティーにある教会歴史美術博物館に，教会の創設期における末日聖徒の改宗や献身の様子を展示する常設コーナーが新設されました。

この展示コーナーでは，訪問者が初期のモルモン教徒の経験を追体験することができます。たとえば，ニューヨーク州での福音の回復，オハイオ州，ミズーリ州，後のイリノイ州における聖徒の集合，ユタ州ソルトレーク盆地への船や幌馬車，手車での聖徒の移住，アメリカ西部でのシオンの建設や全世界に向けての福音の宣言などです。

ここではそのような展示の一部を紹介し，グレートソルト湖岸の新天地を目指して海を渡り，グレートプレーンズと呼ばれる広大な草原地帯を越えて旅した開拓者たちの足跡をたどってみましょう。

左――「最初の示現」を描いた，この1913年作のステンドグラスの窓は，元はカリフォルニア州ロサンゼルスのアダムズワード部の礼拝堂にあった。1820年，若きジョセフ・スミスの祈りにこたえて，父なる神と救い主がみ姿を現わされ，この世に福音が回復される発端となった。

右――オハイオ州カートランド神殿から持ち出された窓。カートランド神殿は1836年3月に竣工した。窓の右側に，ジョセフ・スミスをはじめとするイリノイ州ノーヴーにおける教会指導者を描いた油絵，いすの上に，初期の教会指導者のひとりW・W・フェルプスがひざに載せて使った簡易デスク，予言者ジョセフの兄ハイラム・スミスのベストとズボンが展示されている。

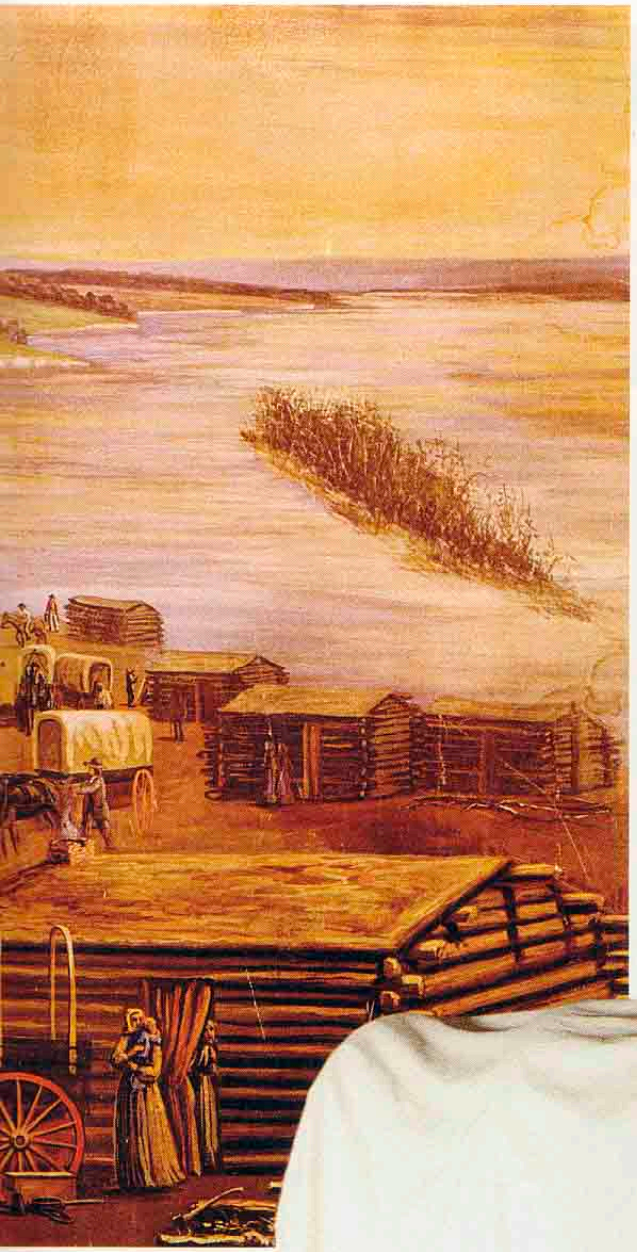
PHOTOGRAPHY BY CRAIG DIMOND

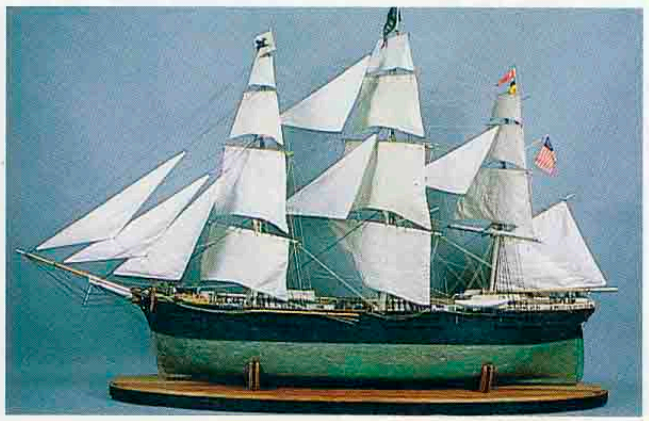
上――C・C・A・クリスチャンセンの描いた，1845―47年のネブラスカ州ウインター・クォーターズ。3,500人余りの末日聖徒が700戸にのぼる丸太小屋を建て，1846年から62年までの間，西へ向かう何千人もの開拓者たちの良き避難場所となった。

左――ブリガム・ヤングのコンパス。

右上――ウインター・クォーターズの開拓者村で最初の2年間に死亡した数百人の聖徒を追悼して，アヴァード・フェアバンクスによって作製されたブロンズ像。

右――西部への大移動に聖徒たちが使った，代表的な幌馬車の複製。





左――新たな生活の場を求める数千人の移民を乗せ，ヨーロッパから大西洋を渡って来た船の一部を伝える特別展示品。この客室は，イギリスのリバプールからマサチューセッツ州ボストンまで２カ月かけて航海してきた船，エノク・トレイン号の設計原図に基づいて実物大に復元された。

上――エノク・トレイン号の船上風景のミニチュア。開拓者たちが残した1856年の航海日誌の内容を基に作成された。このときの乗船者の大半はイギリスからの移民であった。ほかにもスコットランド，ウェールズ，アイルランド，デンマーク，スイスから来た人々が乗船していた。

下――４年を費やして復元された32分の１の縮尺のエノク・トレイン号の模型。水夫独特の帆綱の結び目のような細部に至るまで，この模型はまったく実物と同じに作られている。

左――この手車は，1866年か67年に，イギリスのウィリアム・スティッフ家族がグレートプレーンズを越えるときに使用したもの。これは，それより10年前に教会の勧めに従って移住した一団の手車と，同じ型のものである。

上――1866年，開拓団の一員で写真家のチャールズ・サベージは，撮影器具を購入するためにソルトレークシティーからニューヨークへ旅をした。その帰途，彼は46台の荷馬車で移動中の251人のイギリス人聖徒から成る，トーマス・E・リックス移民団と合流した。彼の撮影した写真は実際の開拓者の一団の貴重な記録である。

左――このエドウィン・エバンズの作と伝えられる油性スケッチは，1892年ごろに描かれた。エバンズは，ソルトレーク神殿の壁に地球の創造，エデンの園や現世の光景を描く準備のために，教会からフランスのパリへ派遣された何人かの「美術宣教師」のひとりであった。

上――ユタ州マンタイ神殿で使われていたオルガン。末日聖徒の礼拝に音楽が重要な役割を果たしていたことを思い出させてくれる。

下――1852年に作成されたこの木製の日輪は，かつては鮮やかな色彩が施されていた。ソルトレークシティーのテンプルスクウェアにあった旧タバナクルの南側の切り妻に取り付けたもの。この日輪は，福音の回復と神の日の光栄を象徴するものであった。□

信仰あつい改宗者

バルセロナの聖徒たち

キャロル・バーマン・リベロー

スペインのバルセロナで教会の最初の礼拝が行なわれた場所は，ホセファ・ラクウェー姉妹と教会員ではない夫の所有する美容院でした。ラクウェー姉妹は，1963年にウルグアイで改宗し，家族と共にバルセロナにやって来ましたが，そこにはまだ教会が組織されていませんでした。60年代後半，宣教師がフランス伝道部から彼女の住むバルセロナ郊外にやって来ました。ラクウェー姉妹は宣教師がアパートを探すのを手伝いましたが，礼拝堂に使える場所は見つかりませんでした。７カ月の間，日曜日の朝になるたびにラクウェー家の店のヘアドライヤーやヘアカーラー，ヘアスプレーは教会の集会のために片付けられ，少数でしたが，バルセロナ地区の末日聖徒の開拓者たちがそこに集いました。

今日，バルセロナステーキ部の会員数はほぼ2,000人を数えており，集会を開くのには小さな店ではとても収容しきれなくなっています。しかし，ラクウェー家の犠牲と献身の精神は生き続け，バルセロナの聖徒たちを改宗へと導いています。

スペインの地中海沿岸部で最大の港湾都市バルセロナは，スペイン北東部にあり，商業上，文化上の重要な中心地です。バルセロナの歴史は紀元前にさかのぼり，ローマ時代の遺跡が市の中央広場から発掘されています。中世には重要な貿易港であり，イスラム世界の香料や珍しい果物をヨーロッパ市場に送り出す要衝（ようしょう）でした。バルセロナに古くから住むカタロニア人は商人として，進取の気性に富み勤勉な仕事ぶりで知られ，良い評判を得ています。

何世紀にもわたって，商業と交易がカタロニアの住民たちの生活様式でした。バルセロナでは小規模な家族単位の商業が縦横につながりを持ち，子供たちは両親のそば近くで働きながら成長し，自分たちも同じ仕事を引き継いでいくことを理解していました。今日のバルセロナの家族はほとんどがカタロニア人の血を引く人たちですが，依然として深く商業とかかわっています。１日の労働時間は長く，多くの人はほかの活動をする時間がほとんどありません。

したがって，バルセロナにおける教会の初期の歩みはゆっくりとしたものでした。人々は過去の宗教的な伝統を固く守っており，目先の商売に関心を奪われていて，アメリカからの奇妙な新しい宗教に心を向ける時間がほとんどなかったのです。しかし，この20年間の改宗者の話を聞くと，聖霊の力がこのように大きな障害も克服することがわかります。ホセファ・パラダ姉妹はそのよい例です。パラダ姉妹は前は修道女でしたが，結婚のために修道院を出ました。彼女はほかの宗教を研究する気持ちはありませんでしたが，バルセロナ郊外のバダロナに

若い女性創立150周年記念を祝うためのスーパーサタデーに集まった，バルセロナの青少年たちのキャンドル・アンド・ケーキタイム。

上――スペイン・バルセロナステーキ部プレミア・デマール支部で教師に答える成人の日曜学校の会員たち。

下――子供たちと一緒に家庭の夕べを楽しむカルロス・ロドリゲス兄弟とフリア姉妹。ふたりはインドに宗教を求めて出掛け，途中でスペインに引き返して，真理の熱心な探求を始めた結果，聖書，モルモン経，そして教会へと導かれた。

右のページ――会員になって4年，現在バルセロナ第2ワード部の長老定員会会長，芸術家のエンリケ・トレス兄弟は，ヨーロッパやアメリカの画廊で作品を展示中である。彼の描いたエズラ・タフト・ベンソン大管長の肖像画は，ユタ州ソルトレークシティーの教会歴史美術博物館に納められている。

住む隣人，プリエト家族の生活が目に見えて変化した理由を尋ねました。その答えは「私たちはバプテスマを受け末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になりました」というもので，パラダ姉妹にとってはうれしい返事ではありませんでした。

プリエト家の人たちはパラダ家を訪問し続け，ついに息子のエンリケがバプテスマを受けました。ホセファ姉妹もみたまの力を感じましたが，宗教的なしきたりを捨てることには抵抗がありました。1979年に至って，彼女はついにバプテスマを受けるべきだという強い確信を得ました。ちょうど彼女の3番目の息子がバプテスマを受けようとしていたときであり，彼女自身もそのころには教会の集会に出席し，モルモン経を読んでいました。夫のオーレリオも後に熱烈な祈りを通して証を得，たばこをやめて2年後に改宗しました。家族はそれ以来，何度も神殿に参入しています。

世界のほかの場所でも同様ですが，スペインでもモルモン教会に加わるには，旧来の伝統から離れる必要があるため，多くの犠牲が要求されます。しかし，スペインの会員たちはそれだけに一層献身的です。マヌエル・トランコスコ兄弟と妻のマリア姉妹がふたりの宣教師の訪問を受けた後，マヌエルは宣教師のメッセージについて祈り，モルモン経，教義と聖約，高価なる真珠を研究しました。機械工の彼は，仕事をしている最中に霊的な証を得，直ちにバプテスマを受けられるよう宣教師に頼むために，家に走って帰りました。

家族の改宗後，トランコスコ兄弟は仕事が朝6時に始まり夜の10時に終わるにもかかわらず，様々な多くの召しを献身的に果たしています。彼の家族はとても信仰が強く，北へ約1,200キロの距離にあるスイス神殿まで小さな車を走らせて行ったほどです。旅行の間，彼らの信仰はさらに強まりました。道を尋ねるために車を止めるたびにスペイン語を話せる人に出会えたからです。トランコスコ兄弟姉妹は4人の子供たちと結び固められ，今ではさらに4人が彼らの永遠の家族に加わっています。

伝統が生活に深く根を下ろしている所ほど伝道もむず

かしく，会員伝道に工夫が要求されます。約14年前，バルセロナ郊外にあるプレミア・デマールで，マリー・カルメン・クラベット姉妹とキャロル・B・リベロー姉妹は，家庭扶助協会を始めました。この町に支部がなかったのです。出席した25人の女性の大半は教会員ではありませんでしたが，毎週祈りをもって準備され選び抜かれたレッスンを楽しんでいるようでした。

プレミアで行なっていた家庭扶助協会から４人がバプテスマを受け，宣教師がこの小さな町に送られました。当時，神権者はいませんでしたが，プレミア・デマール支部が開設されました。数年間は宣教師が支部長として働きましたが，かつてリベロー姉妹が初等協会で教えた帰還宣教師のハビエル・ガリガ兄弟が，プレミア・デマールに移ってきて，今は彼が支部長として働いています。

やはりバルセロナ郊外にあるオスピタレットで，ラモン・アリアガ兄弟と妻のグロリア姉妹は，家庭の夕べに教会員ではない友達や家族を定期的に招いています。「ときには10人，12人の訪問者があります。だれを助けたらいいか，だれを招いたらいいか１週間の目標を立て，いつも孤独な人に愛を示すように心掛けています」とふたりは言っています。彼らのふたりの子供は同時にスペインの首都，マドリードに伝道に召されました。「私たちも子供と一緒に伝道しているようなものです。主のために彼らが奉仕する時間の１秒１秒をまるで自分自身の伝道のように感じます。祝福が豊かに注がれるのを感じます」と母親のグロリア姉妹は言っています。

フェラン・シルベストレ兄弟のような若い会員たちはバルセロナの聖徒たちの前途有望な世代の代表です。フェランの両親は彼が12歳のときにバプテスマを受けましたが，フェランは20歳でバプテスマを受けました。ふたりの宣教師がフェランの信頼を得て，福音を教えました。フェランは宣教師から真理を学びながら，自分でもモルモン経を研究し，福音が真実であるという打ち消すことのできない霊的な証を得ました。

１年間の兵役を終え，20代も半ばになっていましたが，フェランはまだ伝道に出たいと思っていました。現在，彼はワシントンD.C.での伝道から戻ったところです。伝道はフェランの生涯で最もすばらしい経験だったと，彼は語っています。

カルロス・ロドリゲス兄弟と妻のフリア姉妹の改宗は20年前にさかのぼります。当時，結婚したばかりのふたりは真理を見いだしたいと強く望んでおり，宗教を求めてインドへ行くことを決心しました。こうしてトルコを走っているとき，車が故障し，立ち往生してしまいました。彼らはそこにとどまることに決め，イスラム教の研究を始めました。しかし，ある日カルロスは聖書を読み始め，自分がクリスチャンであることを思い起こし，イエス・キリストへの深い感謝の気持ちに満たされました。

ロドリゲス兄弟は，キリスト教会のどこかで真理を見いだせるだろうと確信して，スペインに戻りました。彼はバルセロナに残しておいた持ち物の中に１冊のモルモン経を見つけ，読み始めました。非常に熱中し，48時間，文字どおり寝食も忘れてその本を読み続けました。読み終わるや否や，彼は妻を連れて教会に行き，もっと深く教えてくれる人を探しました。あいにく土曜日で，だれも集会所にいません。妻があきらめて「明日来ましょう」と言って帰りかけたちょうどそのとき，ふたりの宣教師がやって来たのです。１週間後カルロスと妻のフリアはバプテスマを受けました。カルロスは今，バルセロナのあるワード部で，監督として働いています。

ここに述べた人たちは，発展を続けるバルセロナの教会の典型的な会員たちです。聖霊が彼らの生活に力を及ぼしバプテスマを受けるよう導いたとき，彼らは回復された福音を受け入れる強い望みを持ち，必要な時間と力を得たのです。１日の労働時間は依然として長時間にわたっていますが，それでも熱意をもって献身的に主に仕えるスペインの開拓者の会員たちに，教会の集会，伝道，神殿に参入するための時間はなぜか常に備えられているのです。□

＊キャロル・バーマン・リベロー姉妹：スペイン・バルセロナステーキ部プレミア・デマール支部扶助協会会長。

「盲人の目を開くイエス」

「そのうちに、彼らはベツサイダに着いた。すると人々が、ひとりの盲人を連れてきて、さわってやっていただきたいとお願いした。……イエスが……目の上に両手を当てられると、盲人は見つめているうちに、なおってきて、すべてのものがはっきりと見えだした。」（マルコ8章22、25節）

聖徒の道 1991年6月20日発行(毎月1回20日発行)第35巻第6号
昭和42年12月18日第3種郵便物認可

「ゴリアテ」のように恐れられているタビタ・サガポルも，母親の前では愛らしい息子に変わってしまう。「霊の巨人」p. 12参照

人生の教訓

アジア地域会長会第一副会長
W・ユージン・ハンセン

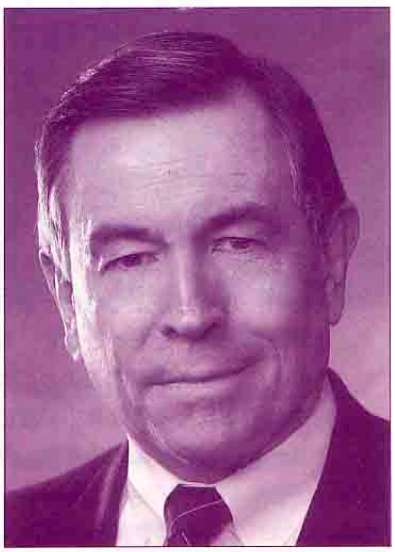
人生は何物かに向かって進むひとつの過程であり，様々な経験に満ちています。順風満帆のときもあれば，悲しみの淵に沈むときもあります。成功があり，失敗があります。人生の魅力は，日々新たな成長と発展の機会が訪れ，昨日までは思ってもみなかった改善のチャンスに恵まれるという点にあります。

価値ある目標を設定して，それが達成できると，私たちは大きな満足と新たな意欲を感じます。これは良いことです。では，だれもがいろいろな折に経験する試練や失敗についてはどうでしょう。試練や失敗は，私たちの主体性を失わせ，信仰を揺るがす「恐れ」を，心の中に植え付けるだけなのでしょうか。そうではないことを望んでいます。

私としては，試練や失敗は成長の途上に横たわる大切な要素であると，固く信じています。この点を深く心に留め，失敗を恐れて覇気を失ったり，前進をやめたりしてはなりません。

中には，残念なことに，失敗を恐れて意義ある企てに取り組もうとしない人々もいます。しかし，失敗したことのない人がいるでしょうか。第26代大統領セオドア・ルーズベルトは，次のような言葉を残しました。「失敗を知らないのは何事にも取り組んだ経験のない者だけだ。」

失敗は恐れるに足りません。それどころか人生における成長に必要な要素であることが，しばしばあります。ときには失敗だと考えていた出来事が，へりくだる機会となったり，人生で進む方向を変える仲立ちとなっていたことに気づく場合があります。



ここで，ヒュー・B・ブラウン副管長がカナダ軍の将官昇進試験に合格したときの体験談について考えてみましょう。ブラウン長老は自分はあらゆる点で将官として申し分ない状態にあると思っていました。しかし，実際に将官の任命を受けたのは別の人でした。ブラウン長老は任命を受けた士官よりも，自分の方がふさわしいように思いました。試験に通ったことがブラウン長老にとってかえって大きな悩みの種になり，仕事に身が入らなくなり，苦々しい思いまでが頭をもたげてきました。

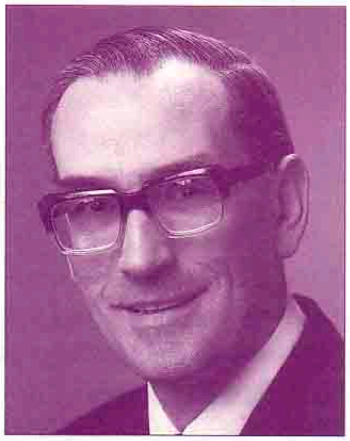
そんなある晩，ぶどうの茂みの夢を見ました。茂みは見事に育っていて，実をたくさんつけていました。ところが庭師がやって来て大胆に刈り込み，実をつけている枝まで切り落としてしまいました。それを見ていた隣人は「なんて愚かなことを。どうせいい結果にはなるまい」と思いました。しかし，事実は，手入れのおかげでぶどうの木はかえって深く根を張り，それだけ一層多くの枝が豊かに実をつけるようになったのでした。ブラウン長老はこの夢を見て慰められました。

言うまでもなく，私たちはこの教訓がブラウン長老の生涯で実を結んだことを知っています。彼は，後に十二使徒に召され，大管長会の一員として支持を受けました。もし，カナダ軍の将官になっていたら，ブラウン長老は一生を軍隊で過ごし，大管長会で働くすばらしい機会を逸していたかもしれません。

私にも若いころに経験した，似たような思い出があります。学生時代に級長に立候補しました。自分以外にこの責任を果たせる人物はいないと思ったのです。したがって当選を疑っていませんでした。ところが投票の結果は大敗でした。あまりのひどい負け方が，まだ年若かった私にはかなりこたえました。その時点まで落ち度なく生活してきた自分のプライドが，ひどく傷つけられたように感じました。しかし，思いやりのある賢明な父と共に敗因を振り返ってみて，選挙に勝つよりも負けたことから多くを学んだことを私は悟りました。しかも，確かに謙遜になる良い機会でした。

どのような出来事から生じた結果も，早まって悲観的な判断を下してはなりません。初めは失敗と思われたことからきわめて良い結果の生じることが，よくあるからです。向上を目指して絶えず働き，努めていくことが，結局私たちのためになるのです。

デレク・A・カスバート長老逝去



七十人第一定員会会員デレク・A・カスバート長老が逝去し，ユタ州ソルトレークシティーにおいて，4月11日に葬儀が行なわれた。享年64歳であった。第161回年次総大会の閉会の際の発表(4月7日)によると，死因は癌であった。

カスバート長老は，イギリスに生まれ，1951年に教会に改宗し，1978年4月に教会幹部に召された。七十人定員会会員として，イギリス諸島，アフリカ，ヨーロッパ，南アメリカ，北アメリカの各地域を担当した。息を引き取る前日に解任されるまでは，中央日曜学校会長会第一副会長として働いていた。

七十人定員会に召されたときは，スコットランド・エジンバラ伝道部の伝道部長であった。それ以前は，地区代表，ステーキ部長，地方部長を歴任し，4人の伝道部長のもとで副伝道部長の責任も務めた。

遺族には妻のマリエル・オリーブ・メーソン姉妹，4人の息子と6人の娘，数人の孫がいる。

「奉仕は人を変えます。奉仕を通して人は精神的に高められ，心を清められ，理解力が深くなり，最善の力を発揮できるようになります。また，自分のことだけでなく，周りの人に目を向け，自分の必要よりも他人の必要を考慮するようになります。正義にかなった奉仕は，救い主が示されたような真の慈愛の表われなのです。」(デレク・A・カスバート『霊性を高める奉仕』「聖徒の道」1990年7月号，p.12)

日本宣教師訓練センター所長
赤木健二兄弟逝去

1991年4月2日，日本宣教師訓練センター所長の赤木健二兄弟(65歳)が虚血性心不全のため急逝した。

赤木所長は，神戸伝道部伝道部長(1974—1977年)，高等評議員，ステーキ部七十人定員会会長，副監督を歴任し，1991年2月に日本宣教師訓練センター所長として赴任したばかりであった。出身地であるハワイ，ワヒアワで行なわれた告別式には，七十人第一定員会会員である菊地良彦長老も出席した。

なお後任は，日本宣教師訓練センター所長を務めたことのある前地区代表の井上龍一兄弟が務めている。

新伝道部長の紹介

6月に3年の任期を終える3人の伝道部長に代わる新しい伝道部長が大管長会によって発表された。7月1日から着任となる。

任期を終えるのは，土田勝(日本札幌伝道部)，W・エメリー・スミス(日本名古屋伝道部)，レイモンド・Y・佐々木(日本福岡伝道部)の各伝道部長である。

クリステンセン伝道部長ご夫妻

エイムズ伝道部長ご夫妻

フィゲレス伝道部長ご夫妻

日本札幌伝道部

ネッド・ルイス・クリステンセン伝道部長(54歳)。ユタ州バウンテフルのミューラーパークステーキ部バウンテフル第59ワード部に所属し，これまで副ステーキ部長，副監督，ワード部書記，支部長，副支部長などを歴任。1957年から59年までの間，北部極東伝道部で伝道している。教会機密サービス課のディレクターであった。ユタ大学を卒業している。ユタ州レバンでアサヘル・アルトン・クリステンセン，ファーン・レア・ボッシュ・クリステンセン夫妻の間に生まれ，カーラ・マックスフィールドと結婚して，3人の子供に恵まれている。

妻のクリステンセン姉妹はワード部扶助協会教師の責任にあった。これまでワード部扶助協会会長，同副会長，若い女性アドバイザー，子供日曜学校主任などを歴任。クリステンセン伝道部長と同じくユタ大学に学んだ。ユタ州ソルトレークシティーでリグランド・O・マックスフィールド，ミリアム・バン・ワガナー・マックスフィールド夫妻の間に生まれた。

日本名古屋伝道部

ウォルター・L・エイムズ伝道部長(44歳)。召されたときは東京南ステーキ部東京イングリッシュ第2ワード部に所属し，高等評議員の任にあった。これまでステーキ部長，副ステーキ部長，高等評議員，副監督などを歴任。モニターカンパニーの日本支社長として働いていた。ブリガム・ヤング大学を卒業後，ミシガン大学で哲学の博士号を，ハーバード・ロースクールで法律学の博士号を取得している。カリフォルニア州ロングビーチで，ビル・チェスター・エイムズ，フランシス・アーマー・エイムズ夫妻の間に生まれ，エブリン・ヒントンと結婚して，6人の子供に恵まれている。妻のエイムズ姉妹はワード部扶助協会の副会長の責任を果たしていた。これまでステーキ部扶助協会会長，ワード部扶助協会会長および教師，託児主任，若い女性会長，セミナリー教師などを歴任した。活動委員会では，特別に夫婦で委員長に召され働いた。ブリガム・ヤング大学を卒業後，イースタンミシガン大学で修士号を取得。ユタ州シダーで，デルマー・ヒントン，ワニタ・ブルックスビー・ヒントン夫妻の間に生まれた。

日本福岡伝道部

シリル・岩村・アモロゾ・フィゲレス伝道部長(42歳)。召しを受けたときは，ソルトレーク・ホラデー北ステーキ部バレービュー第2ワード部の副監督であった。これまでに高等評議員，ステーキ部書記，大祭司グループ教師，長老定員会会長，若い男性副会長などを歴任。1969年から71年までの間，日本東部伝道部で伝道している。教会コーリレーション部調査課課長であった。ブリガム・ヤング大学から学士号と修士号を，また，パーデュー大学から博士号を取得。ハワイ州マウイ島ラハイナで，シリロ・アモロゾ・フィゲレス，キミコ・岩村・フィゲレス夫妻の間に生まれ，アイリーン・チズコ・シタモトと結婚して，3人の子供に恵まれている。妻のフィゲレス姉妹は扶助協会教師の責任にあった。これまでにステーキ部扶助協会の副会長と現職管理会員，ワード部若い女性副会長，初等協会の現職指導者および教師，訪問者のための教会の史跡案内担当者などの責任を果たしてきた。ハワイ大学を卒業。ハワイ州マウイ島ラハイナで，マサアキ・シタモトとカツエ・ヤマモト・シタモト夫妻の間に生まれた。

家庭を感謝の気持ちで満たすには

我が家では以下の3つの点について，それぞれの指針に従いながら家族の中に感謝の気持ちが育つように努めています。

家庭と家族

●人のために何かする機会を設けて，子供たちが感謝の気持ちを表現できるようにする。
●思いやりの込もった行ないを見逃さずに，感謝の言葉をかける。
●子供の見ている前で互いに敬意や親切を示す。小さなことに対してもお互いに「ありがとう」と言う。このような積み重ねが愛や一致，感謝の心を養う土壌となる。
●家族の祈りの中で，家族一人一人について主に感謝し，親切で明るく，よく手助けしてくれる，といった家族の良い点に触れる。

教会とその教え

●まことの予言者に導かれ，イエス・キリスト教会に属していることの幸せについて，子供に教える。
●教会は，気にかけてくれる友達のいる，大きな家族のようなものであることを教える。
●子供に神殿についてたびたび話し，神殿が家族の結びつきとどのような関係があるかを教える。

国　家

●折にふれ，特に家族が集まったときに，愛国的な歌を歌う。
●家庭の夕べで，自分たちが享受している自由について話し合う。
●合衆国には公立学校制度があるおかげで，生活の糧を得るための教育が受けられることを，家族が理解できるように助ける。
●子供をこの国が勝れてよい土地であると教えているモルモン経の聖句に親しませる。

カリフォルニア州メンロパーク
ウェス・ベンソン，ネル・マリー・ベンソン

■毎日の積み重ね

子供には，たとえわずかずつでも貯金して，銀行に預けるように教えないでしょうか。感謝の心も，これと同じように入念な「貯蓄」計画によってのみ，身に付けることができるのです。

リーハイは家族を連れ，食糧のほかは何も持たずに荒れ野へ旅立ちました。おそらく家財は一切残していったのでしょう。リーハイは3日の間荒れ野の中を旅し，祭壇を築いて主に感謝を捧げました。リーハイが一体何に感謝したのかと，不思議に思う人も多いでしょう。彼は，それまでの生活の中で蓄えてきた感謝の気持ちを引き出したのです。

私たちも信仰をもって天父に感謝することにより，リーハイに見習うことができます。しかも，へりくだった悔いる心をもって，たびたびそのようにする必要があります。そうすれば試練に遭ったときでさえ，父リーハイのようにいつも感謝することができるのです。

メキシコ，メキシコシティー
ビル・プラット，マリリン・プラット

■模範によって教える

我が家では感謝の心を植え付けるために，模範を示し，経験させ，実際にいつも感謝するという方法を取っています。子供に対しても敬意を込めて接し，建設的な面を強調して，いつまでも悲観的な点にとらわれていないように努めています。物事がうまくいかないときには祝福を数え上げ，見方を変えます。

子供たちには美術，文学，音楽，それに神の創造物にたくさん触れさせ，自分たちの住む世界に感謝することを学ばせています。

ミシガン州バークレー
アネット・P・ウェルズ

■願うよりも感謝する

●たびたび共に祈り，天父に祝福を願うだけではなく，もっと感謝をするようにする。
●家族が助けてくれたときは，必ず，心からの笑顔を見せ，肩を抱いて感謝を表わす。
●謙遜な気持ちで生活し，隣人の持ち物をうらやまない。平凡な事柄にもへりくだって感謝できるなら，私たちはさらに深い感謝の念を持って神に近づいているのです。

アリゾナ州メサ
コニー・スティーブンス

■きょう感謝を示す

私たちは子供に次のように教えてきました。

●人生の宝は，いつでも目の前にあって愛や感謝を示せるわけではない。今自分にあるものに，きょう，感謝しなければならない。
●健康，家，家族も，ほかのいろいろな祝福と同じように，主が与えてくださったものである。

●家族の変わらぬ愛はほかの何ものにも代えられない祝福であり，賜である。
●友情も，愛と熱意を持ってその真価を認め，感謝して願い求めるときに得られる賜である。
ユタ州ソルトレークシティー
バーン・ブラゼル，ルアナ・ブラゼル

■すべては神から与えられる

妻と私は教会に入って以来，毎週日曜日に集会に出席し，家族の祈りや家庭の夕べをしてきました。これらを欠かさず行なっているうちに，自然と心が変わり，復活して再び永遠の家族として生活できるようにしてくださった贖い主に対して，深い感謝の気持ちがわいてきました。

子供たちにも，この世で与えられているものはすべて，主から授けられていることを教えています。
カナダ，マニトバ州ウィニペグ
ホセ・C・スリット

■日々の生活の中で培う

多くの人の目を引く奇跡や世界を揺るがすような出来事でもあれば，感謝することを教えるのは容易でしょう。ですが，私たちは日々の生活の中での小さな事柄にも感謝するように，子供に教えています。

日々の経験や務めこそ，心から感謝する精神を家庭に満たしてくれます。我が家では自然の美しさを見いだすことに大きな喜びを感じていて，ほかの人にもそれを伝えるようにしています。
ペンシルベニア州フィラデルフィア
シャレン・フレデリック

■恵まれない人に分かち与える

ここメキシコでは，多くの人は本当に困難な状況の中で生活しています。このような環境の中で，子供たちはかえって主からいただいているすばらしい祝福に気づいています。こうした祝福に子供たちがさらに感謝の気持ちを深められるように，ほかの人々を助けることによって感謝を示しています。

クリスマスに近い季節になると，恵まれない家族を数軒選び出し，彼らも豊かな夕食がとれるように，必要な材料をすべて匿名で提供することにしています。私たち自身も家族が全員集い，昔ながらの夕食をとりますが，頭を垂れてたくさんの祝福に感謝しながら，子供たちはとても良い気持ちを感じています。
メキシコ，メキシコシティー
スコット・D・リビングストン

■すべては家庭から始まる

我が家では子供たちに，事の大小を問わず，お互いが自分以外の人のためにしたことに心を留め，感謝するように教えてきました。どんなに小さな行ないでも，肩に手を回したり，ほほえんだり，一言ありがとうと言葉をかけるだけで，とても大切なことをしたように思えるものです。

家族がしてくれたことに感謝の気持ちを伝えるなら，もっと人のためにいろいろなことをするようになり，親族や友人に手を差し伸べるのも容易になってきます。
ペンシルベニア州ウェーンズバラ
リンダ・R・カイザー

■他人の生活を祝福する

私たち夫婦が子供たちに教えていることは，祝福に対する感謝の気持ちはほかの人々，特に恵まれない人に対する接し方に表われるという点です。自分の持ち物や才能，時間の使い方にも表われます。主に対する愛と感謝の念は，絶えず人々の生活を祝福することにより，表わせるのです。
カリフォルニア州ホリスター
リチャード・J・メインズ，ナンシー・J・メインズ

どんなに小さな行ないでも，肩に手を回したり，ほほえんだり，一言ありがとうと言葉をかけるだけで，とても大切なことをしたように思えるものです。

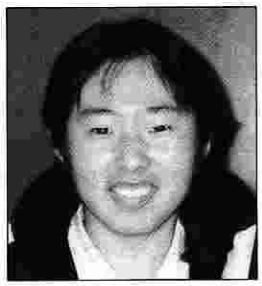
まとめ

1．家族の祈りの中で，あらゆる祝福に感謝する。
2．思いやりのある行ないに心からお礼を述べて感謝する。
3．恵まれない人々のために奉仕をして，感謝の気持ちを行ないで示す。
4．ほんの小さな喜びに対しても，神が与えてくださったことに感謝する。

(「チャーチニューズ」1989年11月11日付)

私と教会

東京北ステーキ部浦和ワード部
福田里美



私と教会との出会いは，私がまだ小学生のころでした。伯父，伯母，いとこが教会員であったために何度か教会へは足を運んだことがありました。しかし当時の私にとって，それは何の意味をなすものでもなかったのです。むしろ「コーヒーも紅茶もだめ，日曜日は遊べない。そんな生活，絶対耐えられない。私は教会員にはなれない」と思っていたのです。

私が宣教師から福音を学び始めたのは，去年の２月でした。その２カ月ほど前に進路について悩み始めたころ，いとこが教会の経営するブリガム・ヤング大学へ留学するという話を聞きました。前々から留学に興味のあった私はとても強い関心を持ち，大学の話を聞くうちにモルモン教とは実際はどんなものなのだろうと思うようになりました。そしてそのころから私は，日曜学校へ行ってみようと思い始め，伯母に話しました。伯母は喜んで，自分たちと共に教会へ行こうと誘ってくれました。何度となく教会へ行き，宣教師を紹介してもらい，福音を学ぶようになりました。初めは福音を学ぶというよりも，大学やアメリカでの生活の話をたくさん聞きたくて，宣教師と会っていました。しかし何度も教会の話を聞いていくうちに，私は少しずつ自分の気持ちが変化していくのがわかりました。神様の教えを知れば知るほど楽しくなり，教会への興味は深くなる一方だったのです。

そんな中，私は幸運にもひとつの良い経験をしました。いとこと共にユースカンファレンスに参加した時のことです。私はまだ教会員ではなかったので，親しい友達はひとりもいませんでした。前夜祭へ行った時，確かに周りの人はとても親切で，楽しい一時を過ごせました。でも何かとても不安にかられることがあったのです。皆といても共通の話題もないし，よく知らないし，いくら多くの人と話しても心の中ではひとりでいるような気持ちがしました。私はその夜宣教師が言ったことを思い出しました。「心の底から祈るならば，神様は必ずこたえてくださいます。」私は心から熱心に祈りました。「どうぞすべての人と親しくなり，共に楽しい時が過ごせますように」と。

次の日，出し物の練習で集まりました。そして皆でバスケットをしたり，出し物の練習をしたりしているうちに，それまでの不安はどこかへいき，時間のたつのを忘れるくらい楽しむことができたのです。私はうれしくて，うれしくて，その夜また祈りました。今度は神様にお礼を言いたかったのです。心から感謝し，祈り続けました。すると一瞬，目の前が突然光に満たされたような気持ちがしたのです。私はその光が神様からの返事であると強く感じました。

何日かたち，初めて宣教師から「バプテスマを受けませんか?」と言われ，私は戸惑いました。バプテスマを受けることは考えてはいました。けれども結婚についてや家族の理解が得られるか，そして一番肝心なことに，私が最後まで教会の教えに従ってしっかりとやっていけるかという不安が，私の頭の中に立ちこめたのです。何日もかけて，祈り続けました。私にはそれしかないと思えたからです。祈ることできっと答えが得られるだろうと，経験を通してわかっていたからです。今考えてみると，私の心はすでにその時，「バプテスマを受ける」と決心していたのだと思います。ただ，私が素直に「はい」と答えられなかったのは，どこかに疑いがあったからだと思います。

私たちは神様を見ることはできません。はたして本当に私の心の中でしか見ることのできないものが存在し，私を助けてくれるのでしょうか。そしてモルモン経や聖書などに書かれているような教えが私にも行なえるのでしょうか。心の中を行き交う思いに，何度も祈り，どうしたらいいか考えました。

最後に私はひとりでは決心がつかないと思い，友人に相談することにしました。教会についてはまったく知らない友人でしたが「自分が信じたことが，一番正しいと思うよ。たとえ人がどんなに疑っても，信じるかどうかは自分次第じゃない」と言ってくれたのです。私にとってその言葉は大きな助けとなりました。「私は確かに神様が私を助けてくれることを知っている。ならばなぜそれを疑う必要があるのだろう。」こう考えると，バプテスマを受ける決心がつきました。私はあの友人の言葉を聞いた時に，確かに神様からの返事だと感じたのです。今こうして実際にバプテスマを受けて強く感じるのは，神様はいつでも私を導いてくださっているということです。この教会へ入ったのも，神様の計り知れない力によって導かれたのだと思っています。そして，私は多くの祝福を受けています。それは，こうして言葉でつづることのできないくらい大きなものです。

ここまで助けてくれた宣教師に感謝しています。宣教師との出会いも私にとっては大きな転機となりました。父や母の理解と，そして何より神様の祝福がいつでもあるということが私の大きな喜びとなっています。私は教会員であることを誇りにして，神様のみもとへ帰れるように毎日を精一杯頑張ろうと強く思っています。（ふくだ・さとみ　ワード部扶助協会書記兼会計係補助）

酪農生活の中ではぐくむ信仰

静岡ステーキ部富士ワード部
中島由美子

北海道の短大で酪農について学んでいた時，私はこの教会に改宗しました。宣教師から神様のことや救いの計画について初めて聞いた時に，小さいころから自分で想像していたことと一致していたので，容易に受け入れられました。バプテスマを受けてから短大卒業までの８カ月は，宣教師と一緒に伝道したり，求道者が福音を学ぶのをお手伝いしたりして，私自身の信仰と証を強めるのにとても良い機会となりました。特にクリスマスの時期には新会員と求道者のためのクリスマス会を計画したり，教会に来ていない会員の家を中心に雪の中をキャロリングしたりして，人に喜んでもらうために奉仕することの大切さを学び，今でも忘れられない思い出となっています。

卒業後，酪農を手伝うために静岡の実家に帰って来ました。家族は当初私が教会に行くことに，あまり良い気持ちは持っていませんでした。しかも酪農という仕事は，一般の仕事のように休日がなく，だれかが牛の世話をしなければなりません。そうしないと牛は飢え，搾ってもらえない乳で乳房はぱんぱんに張ってしまうからです。朝５時に起きて牛の世話や自動搾乳の準備，母牛60頭の乳房の消毒と搾乳器具や床の清掃，そして給餌。これだけのことを朝食前に済ませます。そして午後５時からの２度目の搾乳までの間に子牛の除糞と牧草地の管理，牛を放牧場に出した後の牛舎内の清掃，夕方のえさの準備をするのです。このような状況の中で，私が教会に集うことに対する家族の気持ちはよく理解できました。そこで私は週日に一生懸命働いて，安息日に私が家を留守にしても家族が余計に働かなくてもいいように，前もってできる仕事を済ませておくように心掛けました。そうすることで，少しでも家族全員にとって日曜日が安息日であるようにしたいと思ったのです。こうしてできる限り安息日を守ろうと努力しているうちに，家族も私が教会へ行けるように少しずつ協力してくれるようになりました。

私の家から教会までは40キロも離れていますが，安息日に教会に集うことは私にとって特別な意味があります。教会に行けるだけでもうれしく，自分が強められるのを感じます。問題を抱えている時に兄弟姉妹のお話や証，レッスンの中に答えを見いだしたのも，一度や二度ではありません。

２年前の夏，全国酪農協会が募集した体験論文に入賞し，16日間ヨーロッパへ酪農研修に行きました。２週目の安息日はスイスのインターラーケンという所にいたのですが，前の日に，「安息日には教会に集いたいけど，この地域はドイツ語圏内で言葉が通じないし，どうしたら調べられるだろうか」と思いながら街を歩いていると，細い路地が目に入り，なぜかそちらに足が向かいました。しばらくその道を歩いて行くと街頭伝道をしている宣教師に出会い，教会の場所を教えてもらって，翌日の集会に参加することができました。今でも「あれは主が導いてくださったのだ」と思えてなりません。初めて来た，言葉の通じない私に終始親切にしてくれた会員たちに，言葉を超えた福音のもたらす愛を感じました。聖餐会で横に座ってくれた年配の姉妹が，集会の間中ずっと私の手を握ってくれ，心細かった私はとてもうれしく思いました。

私は酪農という仕事を通して天父の創造してくださった美しい自然の中で，天父の偉大さを常に忘れることなく生活できることに感謝しています。神様のために私たちが努力するときに，本当に大きな祝福と導きがあることを証します。（なかじま・ゆみこ　扶助協会教師）注：1990年７月18日付「静岡新聞」夕刊に，『妹と酪農２人３脚が夢』という中島由美子姉妹についての記事が掲載された。

――お知らせ――

地区代表の異動

井上龍一長老，岡本亮長老が解任され，新たに田中靖也長老が地区代表として召されました。担当地区は，札幌，札幌西，仙台，高崎，東京北，東京東地区です。

役員の任命

1991年３月11日から1991年４月８日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の異動（敬称略）

●盛岡地方部北上支部
新支部長：永瀬修
（前任者：荒木隆志）

●長野地方部長野支部
新支部長：松橋春海
（前任者：石田康夫）

●町田ステーキ部町田第２ワード部
新監督：小島誠
（前任者：渡辺隆史）

●福岡ステーキ部藤崎ワード部
新監督：平良久
（前任者：稲葉豊）

●福岡ステーキ部飯塚支部
新支部長：須恵耕二
（前任者：幸村茂）

●福岡ステーキ部前原支部
新支部長：小部啓一
（前任者：高崎昌一）

4月に召された専任宣教師

第142期生43人

後から1列目左から1—12，2列目左から13—22，3列目左から23—33，前列左から34—43

	〈名　前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1.	岸野功春	東京西S／八王子第2W	福岡伝道部
2.	佐保　健	横浜S／横浜第2W	福岡伝道部
3.	金澤正幸	横浜S／横浜中央W	岡山伝道部
4.	長尾克也	横浜S／横浜中央W	岡山伝道部
5.	髙井照光	鹿児島D／鹿児島B	東京北伝道部
6.	佐野剛史	熊本D／熊本北B	神戸伝道部
7.	港道正樹	仙台S／青葉W	岡山伝道部
8.	名取励一	東京西S／八王子第2W	岡山伝道部
9.	相河祐司	札幌西S／藻岩W	名古屋伝道部
10.	石原　剛	神戸S／明石W	仙台伝道部
11.	黒川一二三	広島S／五日市W	福岡伝道部
12.	大城清剛	東京南S／渋谷W	神戸伝道部
13.	久原和美	三重D／松阪B	大阪伝道部
14.	中澤裕美	横浜S／横浜中央W	神戸伝道部
15.	長田佳子	東京東S／松戸W	仙台伝道部
16.	四元恭子	鹿児島D／鹿児島B	仙台伝道部
17.	吉岡伸子	大阪堺S／堺W	名古屋伝道部
18.	内田直美	大阪S／東大阪W	名古屋伝道部
19.	中川聖子	神戸S／姫路W	仙台伝道部
20.	荒木祥子	大阪北S／京都洛北W	仙台伝道部
21.	河野好美	熊本D／延岡B	東京北伝道部
22.	西嶋夕雅	札幌西S／手稲W	東京南伝道部

	〈名　前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
23.	本田美恵子	鹿児島D／宮崎B	名古屋伝道部
24.	萬　敏　婷	香港S／香港仔W	名古屋伝道部
25.	玉山聖子	神戸S／尼崎W	仙台伝道部
26.	井上美和子	熊本D／諫早B	仙台伝道部
27.	山口弓子	東京北S／豊島W	岡山伝道部
28.	石山光子	東京南S／渋谷W	福岡伝道部
29.	広島由美子	札幌西S／琴似W	岡山伝道部
30.	宮武逸子	高松S／高松W	仙台伝道部
31.	水野朋子	神戸S／神戸W	仙台伝道部
32.	仁禮陽子	鹿児島D／鹿児島B	神戸伝道部
33.	松本有代	神戸S／加古川W	岡山伝道部
34.	中久保光志	仙台S／泉W	岡山伝道部
35.	三角浩一	仙台S／青葉W	神戸伝道部
36.	今井卓也	仙台S／塩釜B	大阪伝道部
37.	辻本　仁	大阪北S／茨木W	福岡伝道部
38.	山口茂樹	高崎S／前橋W	仙台伝道部
39.	本間　努	横浜S／横浜第2W	札幌伝道部
40.	斉道敦志	神戸S／加古川W	福岡伝道部
41.	千木洋幸	名古屋S／春日井B	福岡伝道部
42.	尾崎文之	釧路D／釧路B	岡山伝道部
43.	磯部　巌	釧路D／釧路B	東京北伝道部

S：ステーキ部，D：地方部，W：ワード部，B：支部